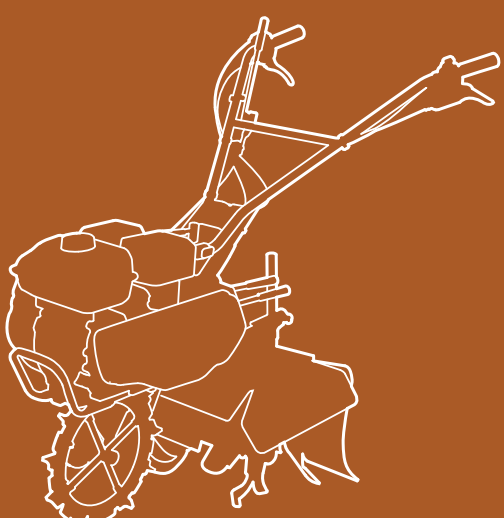
HONDA
汎 用 製 品

耕うん機

FR316

取扱説明書



e SPEC
ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただきました販売店**にお気軽にお申しつけください。

一般公道での走行はできません。
（本機は小型特殊自動車の認定を受けていません。）
夜間作業はできません。
（本機は作業灯が装備されていません。）

取扱説明書について
この取扱説明書は
・作業をするときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

---

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリン　エンジン排出ガス自主規制に適合しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目　次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう ・・・・・ 4
安全ラベル・・・・・

運転操作のしかた・・45
ロータリ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 妊娠中の人、飲酒した人、過労、病気、薬物の影響で正常な運転ができない人は本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 作業をするときの服装は、作業帽などをかぶり、滑り止めのついた作業に適した靴をはいて、キチンと身体にあったものを着用してください。
- 裸足や爪先が空いている靴やサンダルで操作をしたり、だぶついた服や巻きタオル、腰タオルなどは動いている部品に引っかかるなど、思わぬ事故を起こすことがあります。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 作業前の点検や定期点検を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、大ケガをすることがあります。
- 点検作業は、通行の妨害にならないような場所及び平坦で安全な場所で行ってください。
- 本機、作業機を吊り上げて点検する場合は、必ず落下防止の措置をとってください。
- 作業機の取付けは平坦で安全な場所で行ってください。
- 作業内容に適した推奨作業機を使用し推奨以外の作業機は使用しないでください。思わぬ事故の原因となりケガをするおそれがあります。
- 作業内容に適した作業機は、お買いあげいただいた販売店にご相談ください。

警告

- 作業機を使用する前には、作業機の取扱説明書をよくお読みください。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 本機や作業機の改造は絶対にしないでください。また、指定部品以外は使用しないでください。
  適性な性能や機能を発揮しなくなり、思わぬ事故をまねきケガをするおそれがあります。
- 屋内でエンジンを回しながら点検する場合は換気に十分注意してください。換気が悪いと有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

●作業中

- ほ場に人やペットを近づけないでください。特に子供には注意して、子供がほ場に入ったときにはエンジン　スイッチを切ってください。思わぬ事故を引き起こし、ケガをするおそれがあります。
- 傾斜地での作業は、本機の落下や巻き込まれ、転倒等による事故のおそれがあります。やむを得ず傾斜地で作業する場合は、必ず作業前に本機が安全に使用できるか確認し、十分注意して作業を行ってください。
  - ・急な傾斜地では作業はしないでください。傾斜角度が大きいほど、事故が起きやすくなります。また、使用される作業機や作業内容、ほ場の状態により、安全に使用できる傾斜角度は小さくなります。
  - ・傾斜地での作業は、上下方向よりも、なるべく横方向(等高線方向)に行うようにしてください。上下方向の作業は、本機が滑り落ちて来たり、運転者の足元が滑って本機に巻き込まれたりしてケガをするおそれがあります。
  - ・傾斜地での旋回は転倒事故のおそれがあるので、速度を十分に落とし、周囲に注意してハンドル操作を行ってください。

警告

・傾斜地では必要以上に速度を上げないでください。速度が速すぎるとバランスを崩しやすく転倒してケガをするおそれがあります。

・傾斜地では本機がかたむき、燃料がにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

- ほ場への出入り、溝または畦の横断、軟弱地の通過などは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、低速で行ってください。転倒しケガをするおそれがあります。

・急傾斜、溝または畦超えを行うときは、アユミ板等を使用して、上りは前進、下りは後進で行ってください。本機を落下させたり、車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなくケガをするおそれがあります。

・ほ場の状況を十分に把握し、周りに注意して行ってください。

- 作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行ってください。
- 休憩などで本機を離れる場合はエンジンを止めて安定した場所に置いてください。
- ロータリ爪は鋭く尖っていて、高速で回転します。間違って接触すると死傷事故を起こすおそれがあります。

・エンジンがかかっているときは、絶対に手や足を爪に近づけないでください。

・作業中に爪を点検するときは、必ずエンジンを停止し、不意に始動しないように、点火プラグ　キャップを取外して行ってください。また、手を保護するために厚手の手袋をしてください。

- 回転している爪に異物が当たると、非常に強い力でとび散りそれにより大ケガをするおそれがあります。

・作業の前にほ場から棒、大きな石、針金、ガラス等を取除いてください。

・作業中異物に当たったときはすぐにエンジンを止め、点火プラグ　キャップを取外し、注意して損傷を調べてください。損傷したまま再始動すると思わぬ事故になり、ケガをするおそれがあります。

警告

- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
  - ・燃料を補給するときや燃料タンクの付近ではタバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。
  - ・燃料はこぼさないように注意し、所定のレベル(給油限界位置)を超えないように補給してください。燃料給油キャップを確実に締め、もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。
  - ・ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や囲いのある場所で作業を行うときは、排気ガスが蓄積しないように、適切な換気をしてください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- 旋回するときは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、周囲や足元に十分注意し、人や障害物がないことを確認して余裕をもって行ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- ロータリ作業時は爪の回転を止めて旋回してください。回転する爪にふれると死傷事故を起こすおそれがあります。

●作業が終わったら

- 次の作業のために本機の点検、整備を行ってください。
- エンジン上部に物をのせないでください。
- 停止後のエンジンとマフラ(消音器)は非常に熱くなっています。特にマフラは熱くなっているので、手で触れたりポリタンク等をのせないでください。やけどをしたり、変形や漏れなどが発生する場合があります。
- ボディ　カバー等をかける場合は、エンジンが冷えてから行ってください。火災を引き起こすおそれがあります。

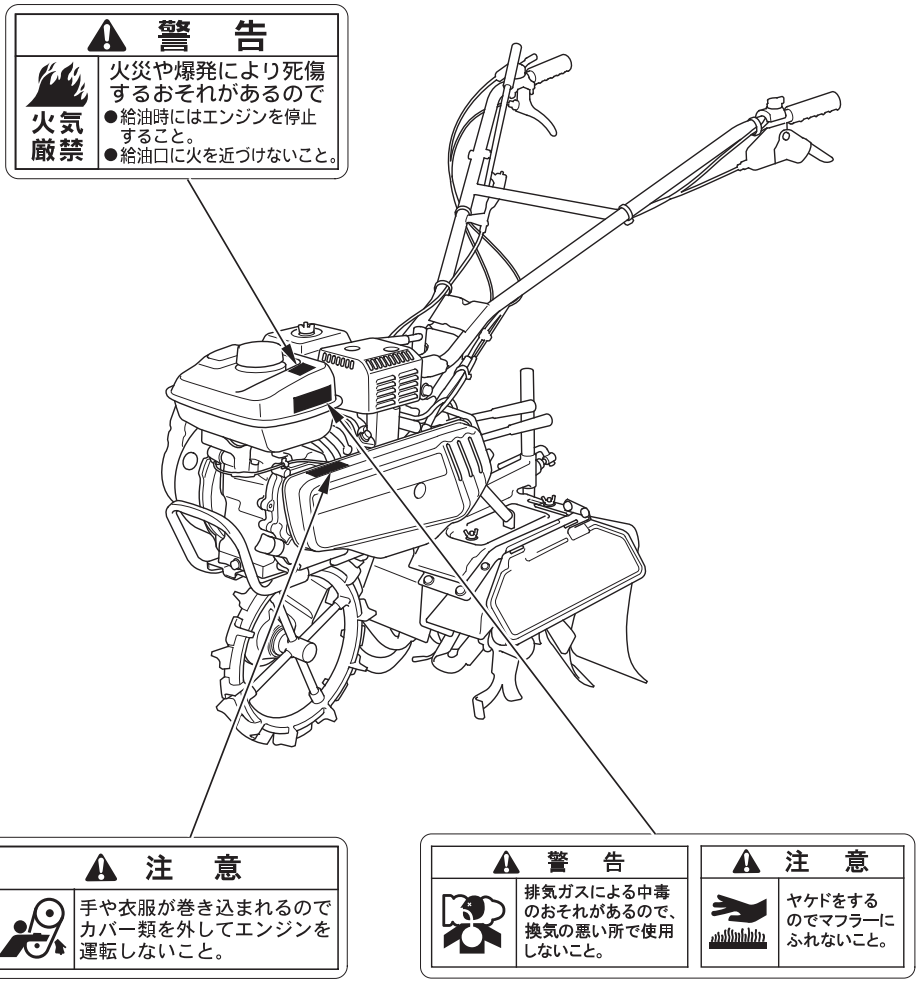
警告

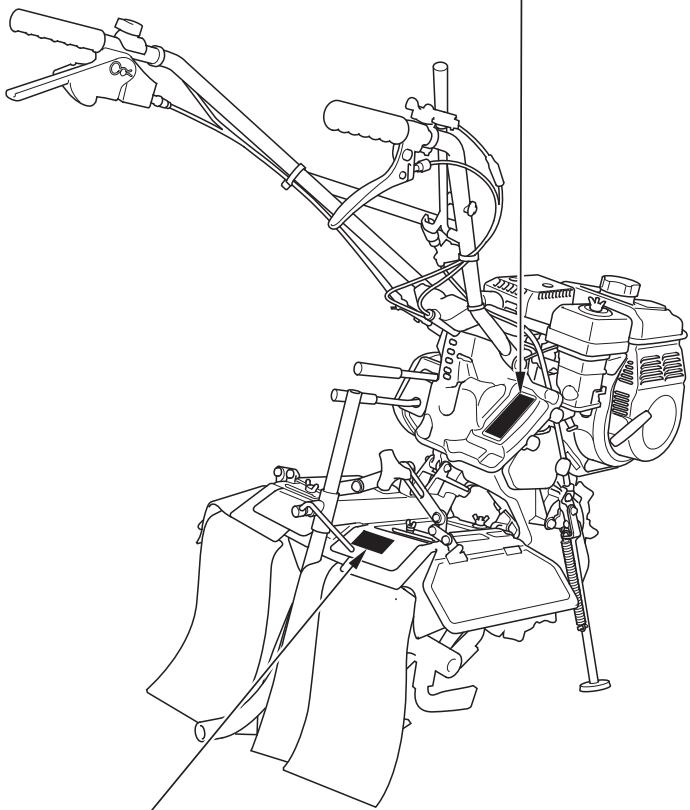
●積み降ろしおよび運搬時

- 本機をトラック等へ積み降ろしするときや、運搬をするときは次の指示に従ってください。守らないと思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。
  - ・荷台から本機、作業機がはみ出さない車を使用してください。
  - ・積み降ろしは、平坦な場所で行ってください。
  - ・積載する車は、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、変速レバーを低速に入れて確実に動かないようにしてください。
  - ・荷台に載せた本機は水平にして、丈夫なロープで確実に固定してください。(71頁参照)
  - ・エンジンをかけて積載するときは、天井のない車を使用してください。
  - ・使用するアユミ板は、本機、作業機の重量に耐えられるもので、滑り止め、外れ防止のフックのあるタイヤ幅以上の幅があるものを使用してください。
  - ・アユミ板の傾斜角度が15度以下になるような長さのものを使用してください。(目安として荷台の高さの 4 倍以上の長さ)
  - ・アユミ板は車に対しまっすぐ、平行にしっかりかけてください。
  - ・ロータリ爪が回転していないことを確認してください。
  - ・積み込みは前進で、降ろすときは後進で行ってください。
  - ・アユミ板に乗る前に、タイヤとアユミ板が一直線であることを確認してください。
  - ・本機は最低速でゆっくり進め、途中で主クラッチ　レバーを絶対に放さないでください。
  - ・積載後本機のエンジンを止め、変速レバーを低速に入れてください。
  - ・燃料コックは“閉”にして運搬してください。

安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。

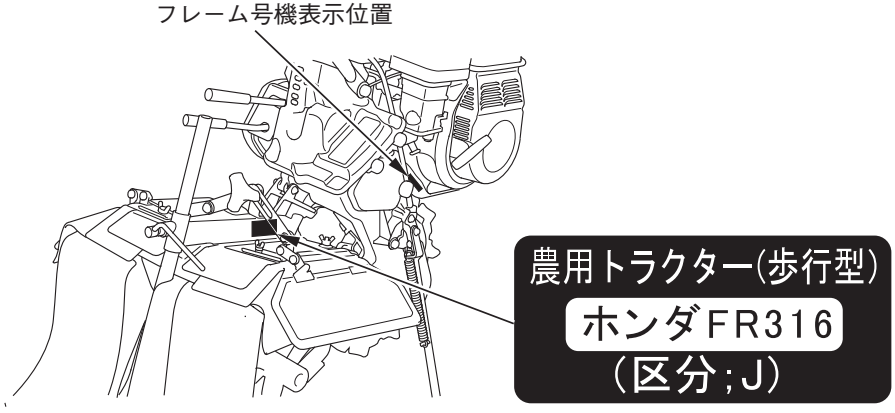



⚠ 警　告
死傷事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。
● 急発進防止のためエンジン始動時は、主クラッチを切り、すべての変速レバーを中立にすること。
● 点検整備時はエンジンを停止すること。
⚠ 危　険
回転している爪にふれると死傷することがあるので、回転している爪に近づかないこと。

サービスと保証について

お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不明な点またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店にお申しつけください。

ご利用の際は商品名とフレーム号機をご連絡くださるようお願いいたします。



(参考：銘板はFR316-Jタイプのものです。)

本機の改造や、仕様の限度を超える使用は保証の対象外になるのでご注意ください。(詳細は保証書をご覧ください。)

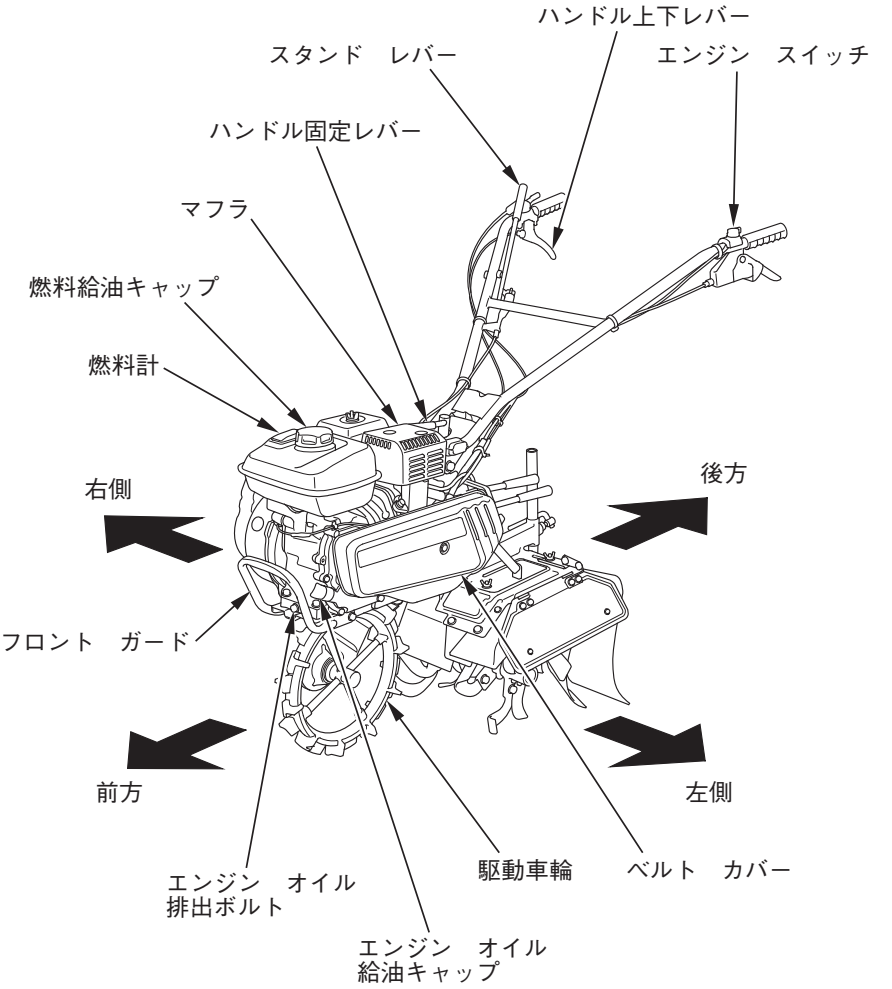
安全鑑定

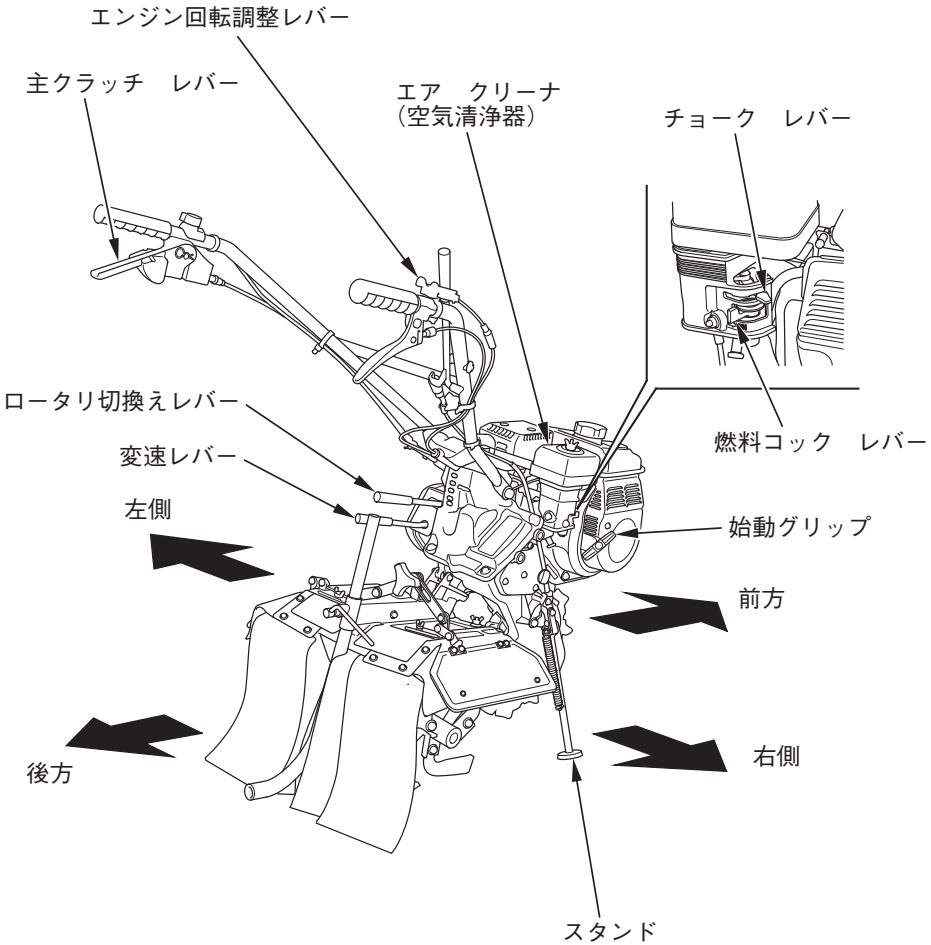
安全鑑定型式名
ホンダ FR316

安全鑑定証票

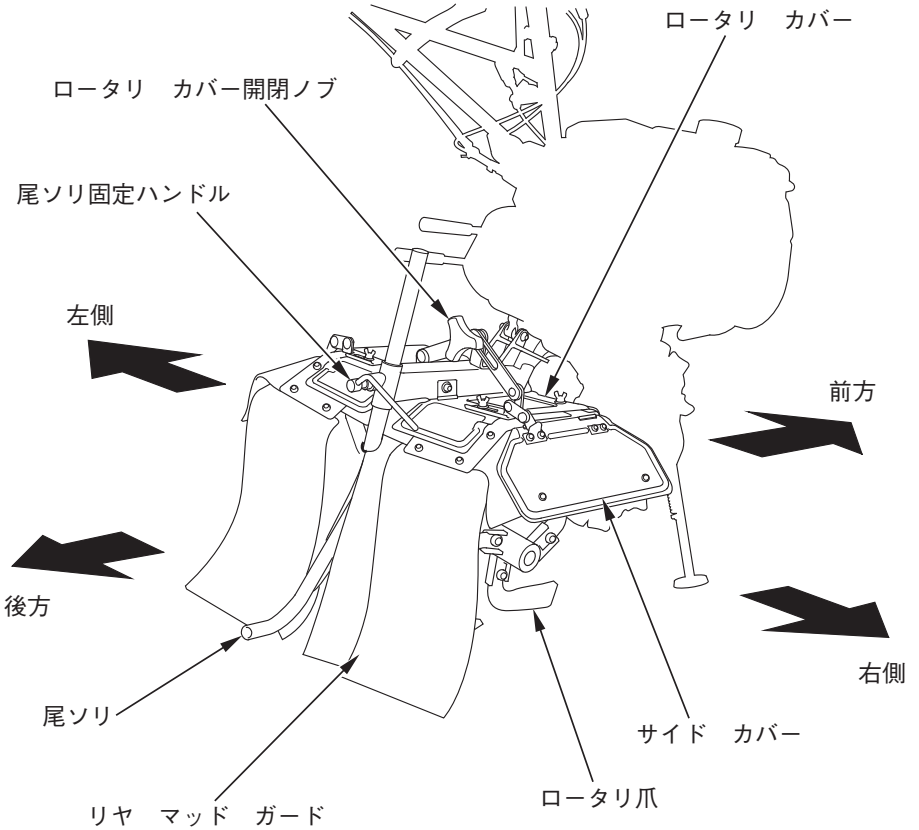


各部の名称と取扱いをおぼえましょう



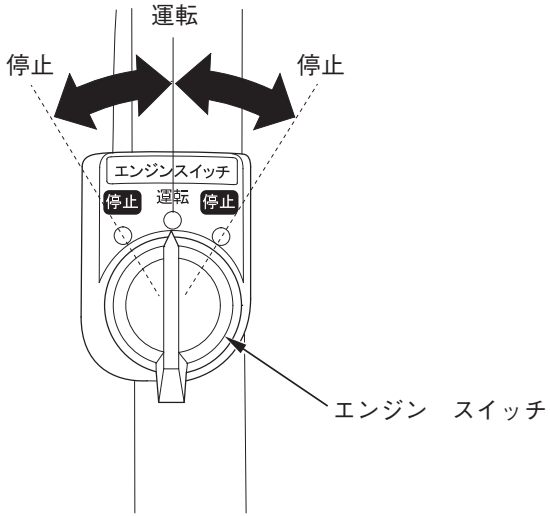

エンジン回転調整レバー
主クラッチ　レバー
エア　クリーナ
（空気清浄器）
チョーク　レバー
ロータリ切換えレバー
変速レバー
左側
燃料コック　レバー
始動グリップ
前方
後方
右側
スタンド

ロータリ部


ロータリ　カバー
ロータリ　カバー開閉ノブ
尾ソリ固定ハンドル
左側
前方
後方
右側
尾ソリ
サイド　カバー
リヤ　マッド　ガード
ロータリ爪

エンジン　スイッチ

エンジン　スイッチは、エンジンの運転、停止をするときに操作します。



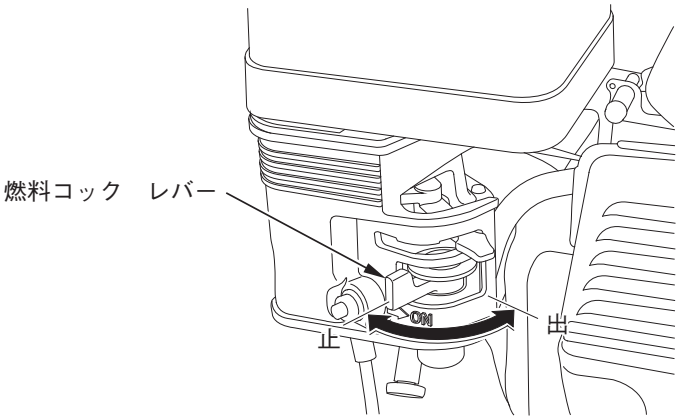
エンジン回転調整レバー

エンジンの回転を調整するものです。
エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。



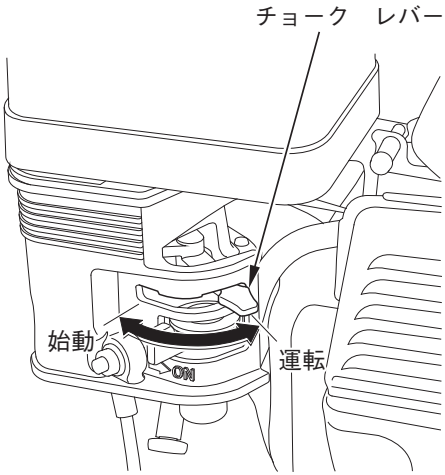
燃料コック　レバー

燃料コック　レバーは、タンクのガソリンを出したり止めたりするときに操作します。



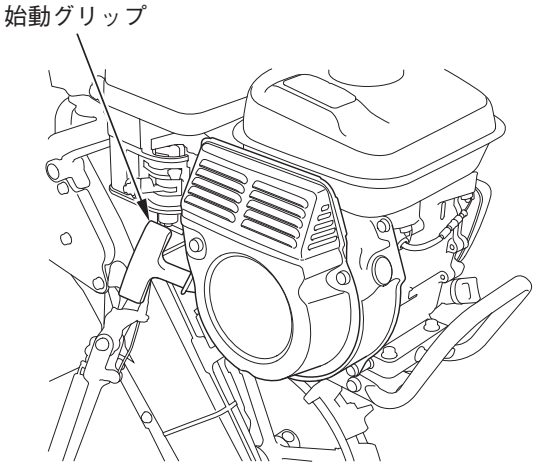
チョーク　レバー

エンジンが冷えているとき、またエンジンがかかりにくいときに操作します。



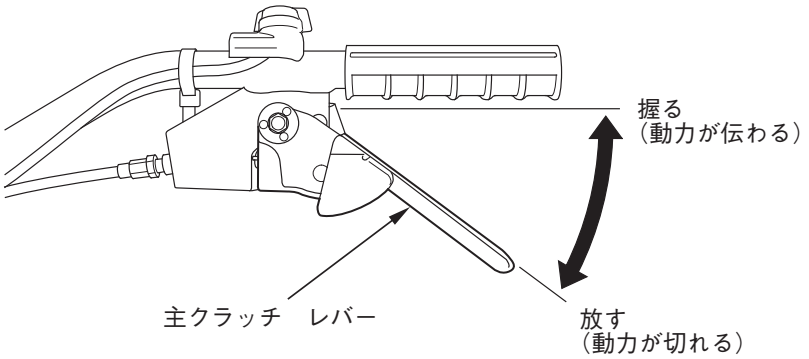
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



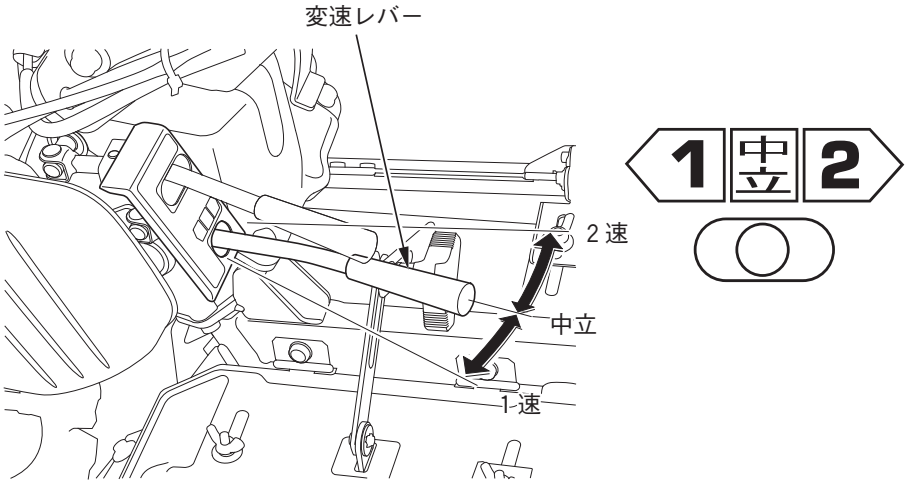
主クラッチ　レバー

主クラッチは、車輪およびロータリへの動力を断続する装置です。
主クラッチ　レバーを握ると動力が伝わり、放すと動力が切れます。



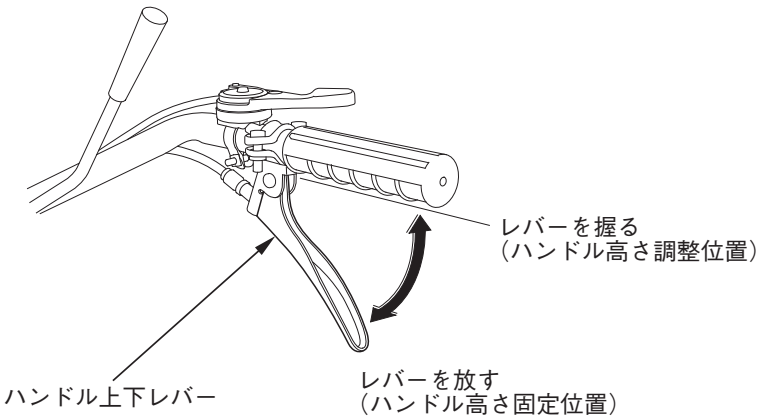
変速レバー

本機の速度を変えるときに操作します。
変速は、前進２段です。作業に合わせて選択してください。



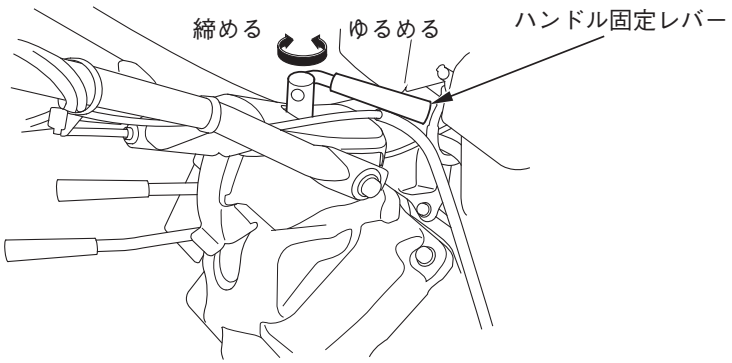
ハンドル上下レバー

ハンドルの高さを調整する時に操作します。
ハンドルの高さは６段階に調整できます。作業内容や運転者の身長に合わせてください。（調整は29頁参照）



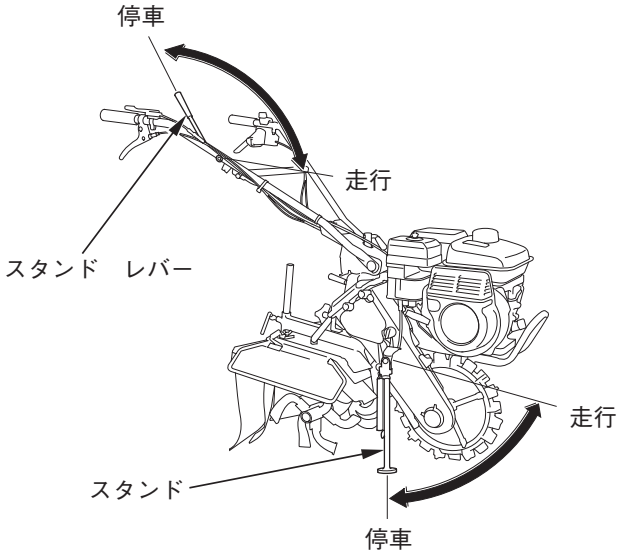
ハンドル固定レバー

ハンドルの角度を調整するときに操作します。
ハンドルの角度は、中央、および左右それぞれ3段階（10°、20°、30°）に調整できます。（調整は30頁参照）



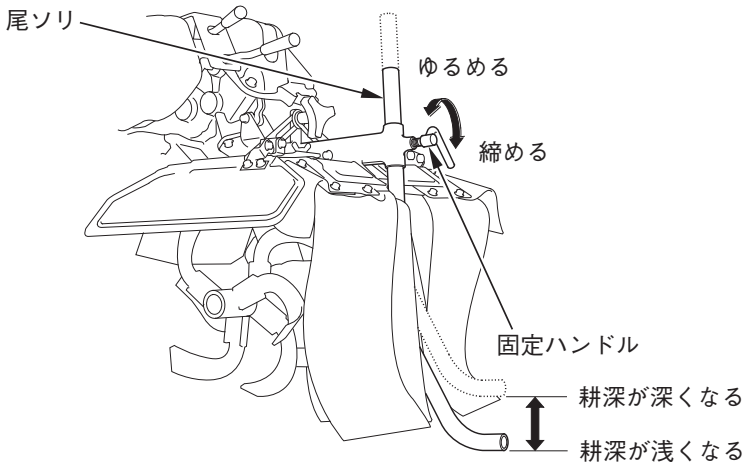
スタンド　レバー

スタンドを使用するときに操作します。
停車：スタンドを使用して停車できます。
走行：スタンド格納して、作業や移動ができます。



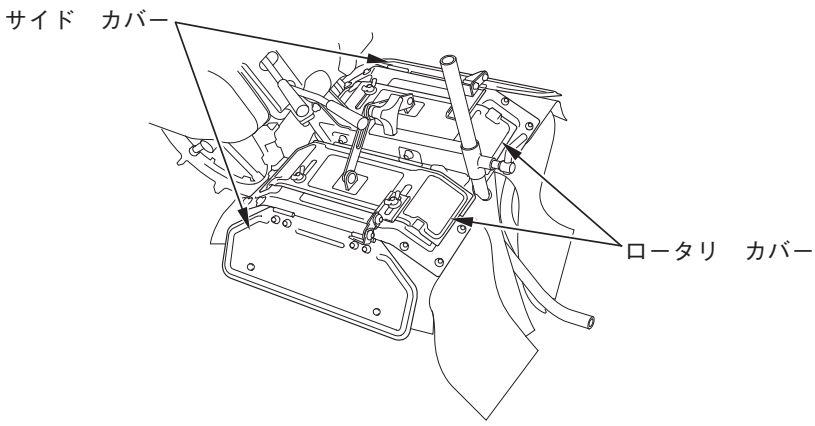
尾ソリ

固定ハンドルをゆるめ尾ソリを上下に移動することによって耕うん深さを調整します。(調整は31頁参照)



ロータリ　カバー、サイド　カバー

ロータリ　カバー、サイド　カバーは作業に合わせて開閉、延長することができます。(ロータリ　カバーの調整は、32 頁参照)



ロータリ切換えレバー

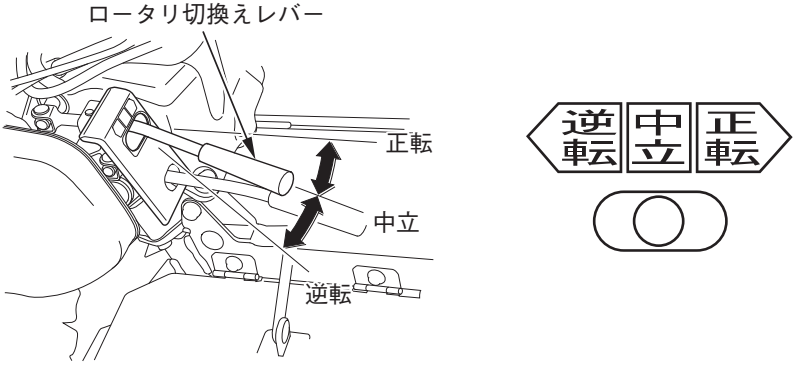
ロータリに動力を伝えるときに操作します。

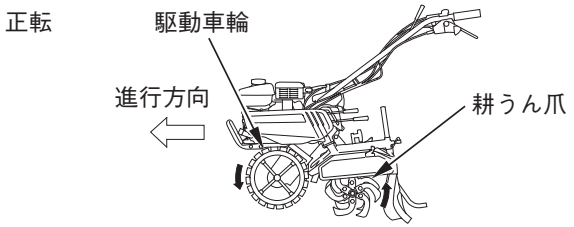
切換えレバー操作により**“正転”“中立”“逆転”**に切換えることができます。

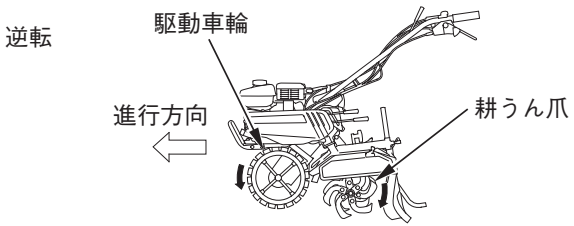
正転･･･耕うん爪は本機前進時の駆動車輪回転方向と同方向に回転します。

中立･･･耕うん爪は回転しません。

逆転･･･耕うん爪は本機前進時の駆動車輪回転方向と逆方向に回転します。







逆転作業をする場合は、ロータリ　ホルダを左右入れ換え、エクステンション　マッド　ガードを取付けてください。(37、38 頁参照)

作業前に点検･調整しましょう

⚠警告
点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- 本機のまわり‥‥‥‥‥燃料の量(23、24頁参照)、オイルの量(25頁参照)は規定量入っていますか。
  燃料の漏れ、オイルの漏れはないですか。
  エンジン廻りのゴミ、ワラ等の付着はないですか。
- レバーの作動‥‥‥‥‥レバーの遊び量(63～65頁参照)は規定どおりですか。
  引っかかりはないですか。
  スムーズに作動しますか。
- 各部の締付け‥‥‥‥‥ハンドル固定レバーにゆるみ、がたはないですか。
  ボルト、ナットにゆるみはないですか。
- 配線、ケーブル類‥‥‥被覆のやぶれ、切れはないですか。
  配線、ケーブルのはさまりはないですか。
- エンジンの始動、停止‥エンジンを始動し、異音はないですか。(始動手順は39～44頁参照)
  エンジン　スイッチで確実に停止しますか。
  (停止手順は50～52頁参照)

- その他異常を感じたら直ちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

ガソリンの点検

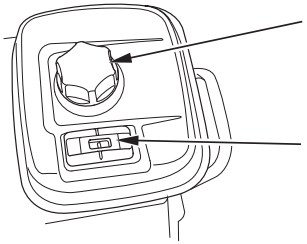
⚠警告

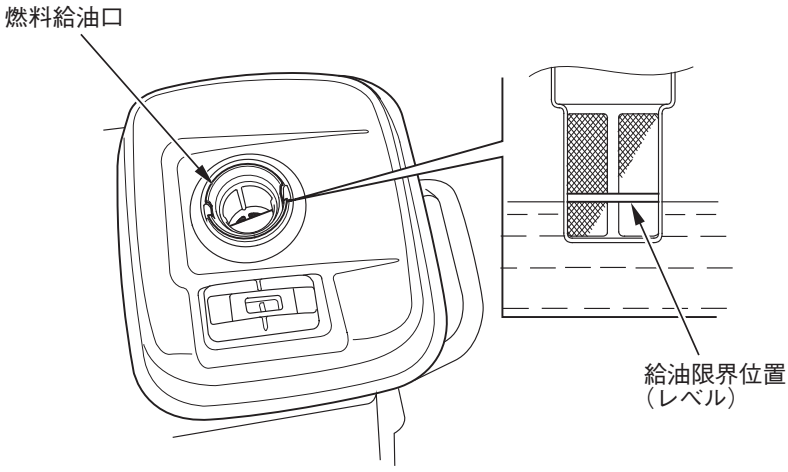
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは

- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふき取ってください。
  ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎると燃料給油キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。
- 傾斜地では本機がかたむきガソリンがにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

点検

平坦な場所にスタンドを接地状態で停車します。
燃料給油キャップを外して燃料の量を点検します。少ない場合は給油限界位置を超えないように補給してください。





補給

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

- 燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置を超えないように補給してください。
- 給油限界位置以上では本機が傾斜したときに燃料給油キャップからガソリンが漏れることがあります。
- 燃料給油キャップは補給後完全にはめ込み右方向に止まるまでいっぱいにまわしてください。

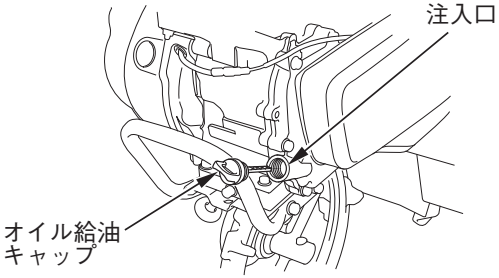
取扱いのポイント

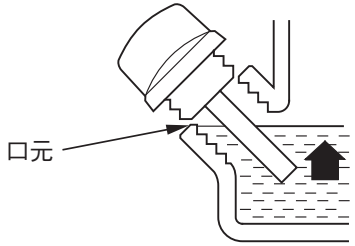
- ガソリンにエンジン　オイルを混合した、混合ガソリンを使用しないでください。本機に混合ガソリンを使用すると始動不良、出力低下、燃料系のつまりの原因となります。
- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- ガソリンは自然に劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

エンジン　オイルの点検

点検

エンジンを水平にしオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。

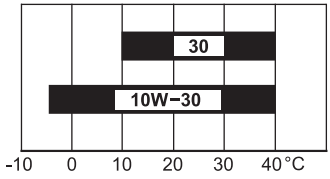




補給

- 少ないときは新しいオイルを口元まで補給します。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は55、56ページ参照)補給後、オイル給油キャップを確実に締付けてください。
- 推奨オイル：(4サイクル　ガソリン　エンジン　オイル)
  Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)
  またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。

エンジン　オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

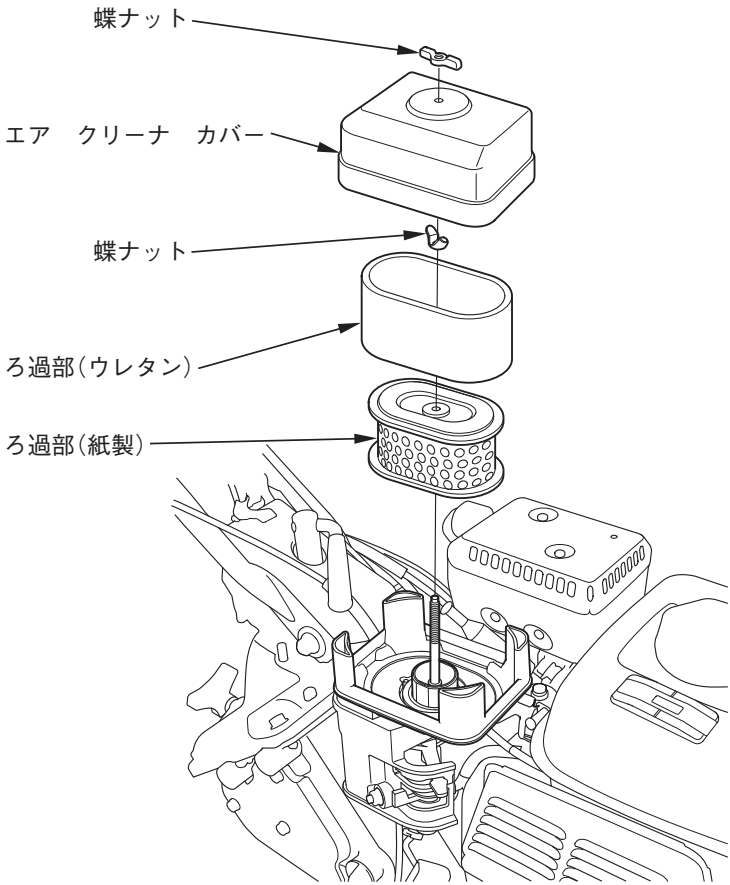


取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エア　クリーナ(空気清浄器)の点検

エア　クリーナ　カバーを外し、ろ過部(ウレタン･紙製)が汚れていないか点検します。
汚れている場合は清掃してください。(清掃方法は57頁参照)
汚れているとエンジン性能が低下します。



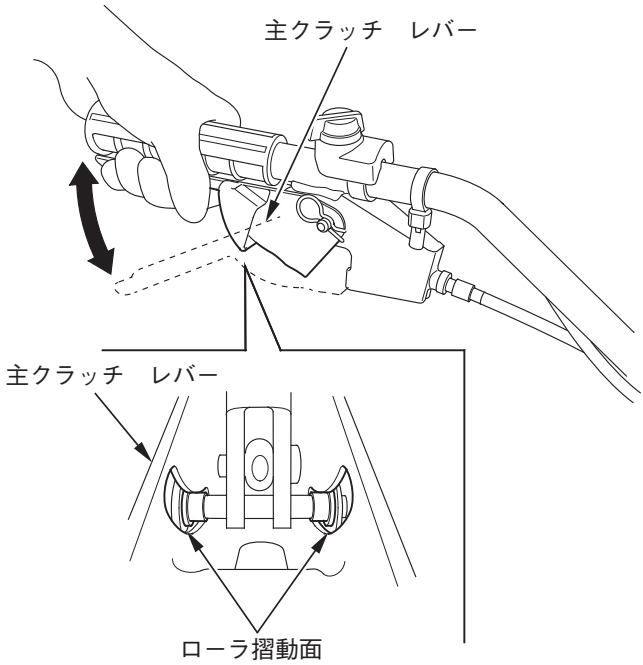
主クラッチ　レバーの作動点検

・主クラッチ　レバーがスムーズに動くことを確認します。
・主クラッチ　レバーのローラ摺動面に異物(ゴミ、砂、土、小枝など)がないことを確認します。

スムーズに動かない場合、異物がある場合は、清掃してください。(清掃は66､67 頁参照)

取扱いのポイント

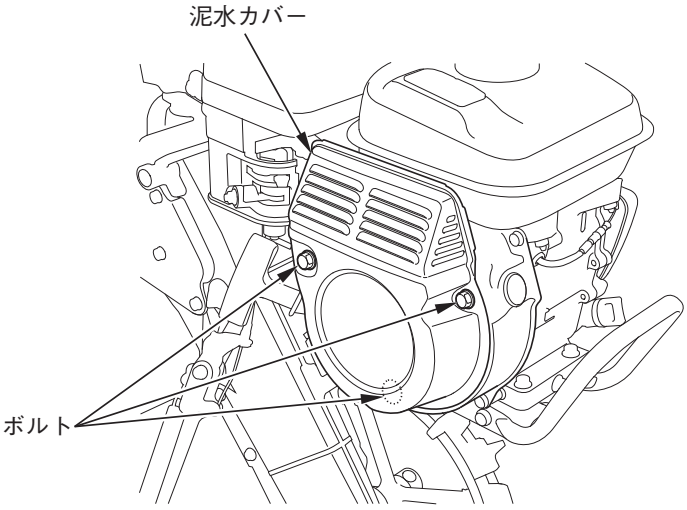
オイル、洗浄剤などを塗布したり吹付けないでください。オイル、洗浄剤などに異物が付着することがあります。



泥水カバーの点検

泥水カバー上部より目視にて点検します。
草や土が入っていたり、泥水が入った場合は清掃してください。

《清掃のしかた》
ボルト３本を外して泥水カバーを取外し、カバー内部を清掃します。
清掃後、泥水カバーを取付けボルトを確実に締付けます。

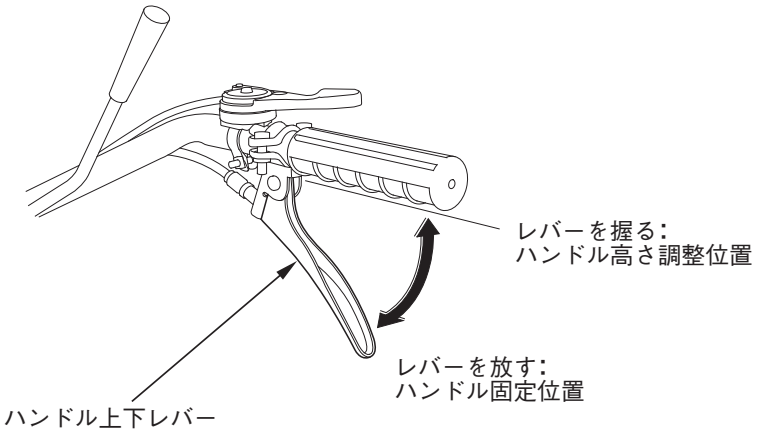


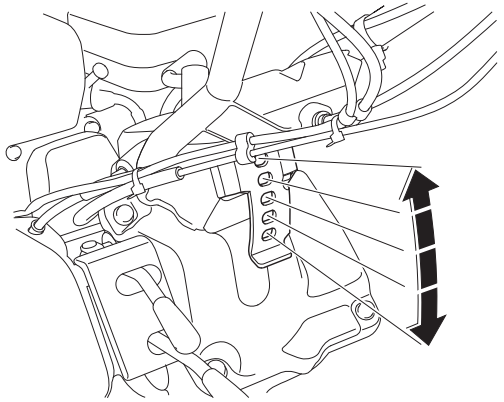
ハンドル高さの調整

ハンドル高さは6段階に調整できます。ハンドル高さは作業しやすい位置に調整してください。

《調整のしかた》

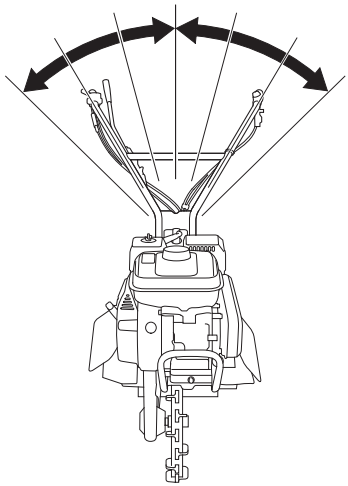
1. ハンドル上下レバーを握り、ハンドル高さを変更します。
2. ハンドル上下レバーから手を放します。
3. ハンドルを軽く上下に動かし、ハンドルが固定されているか確認してください。
   “カチリ”と音がして固定されたことを確認してください。



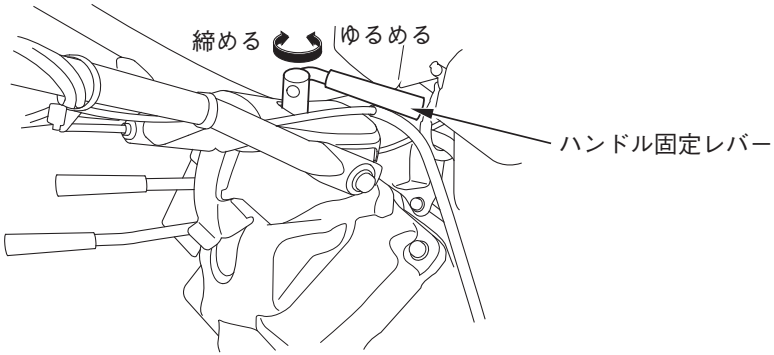


ハンドル角度の調整

ハンドルの角度は、中央および左右それぞれ3段階(10°、20°、30°)に調整できます。ハンドルの角度は作業に合わせて調整してください。



1. ハンドル固定レバーを3～4回転ゆるめて、ハンドル角度を変更します。
2. ハンドル固定レバーを確実に締付けます。



3. ハンドルを軽く左右に動かし、確実に固定されているかを確認してください。

耕うん深さの調整

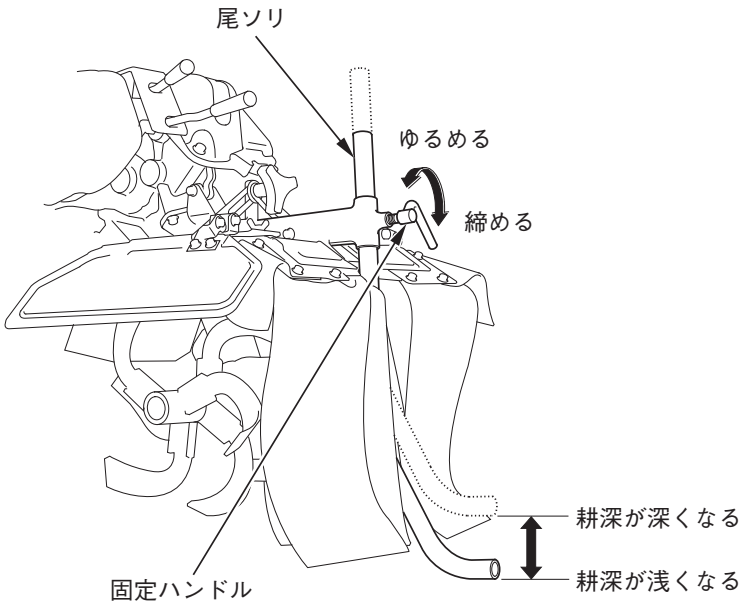
耕うん深さは、固定ハンドルをゆるめて、尾ソリを上下に移動して調整します。

⚠注意

調整は平坦な場所でエンジンを停止して行ってください。

尾ソリを引き上げる…耕深が深くなる
尾ソリを押し下げる…耕深が浅くなる

土が柔らかくて、ロータリが潜ってしまうときには、尾ソリを押し下げてください。または土が硬いときにも、尾ソリを押し下げて、耕深を浅くしてください。



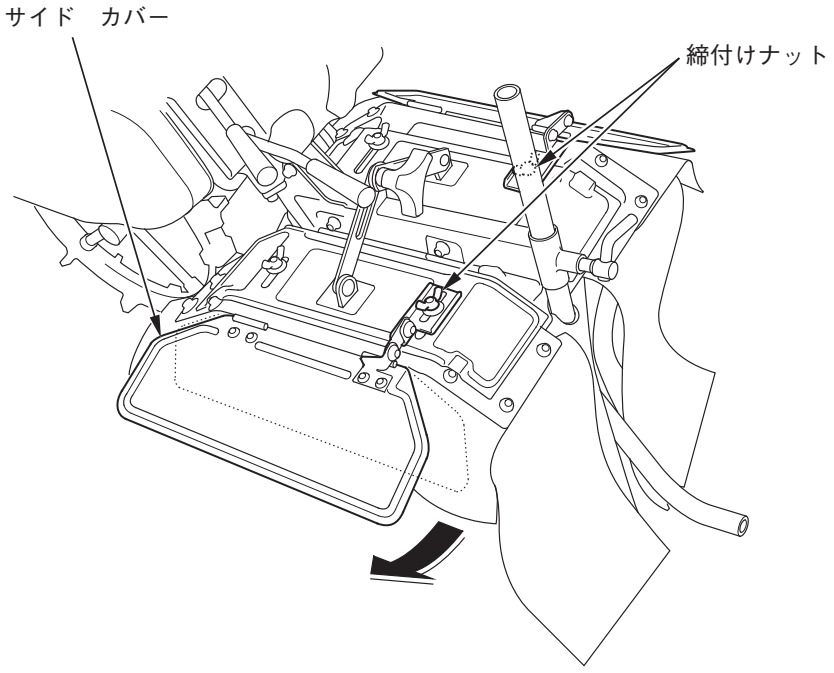
ロータリ　カバーの調整

⚠注意

ロータリ　カバーの調整を行うときは、平坦な場所でエンジンを停止して行ってください。

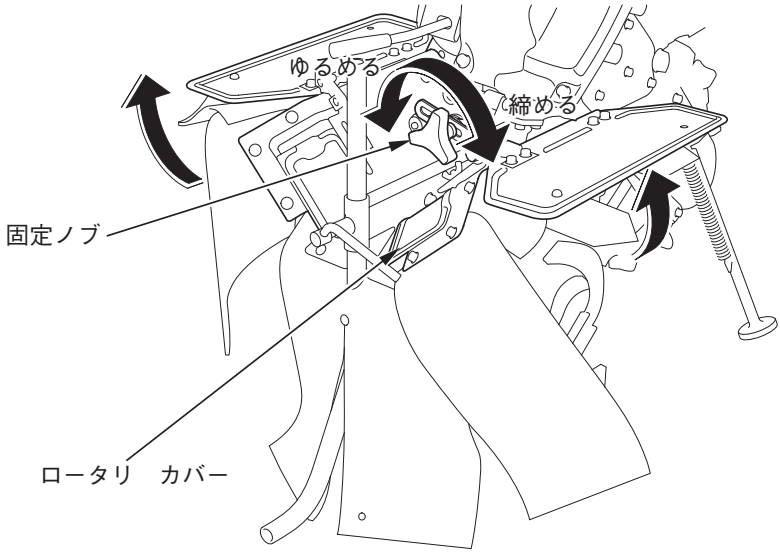
サイド　カバーの開きかた

左右の締付けナットをゆるめてサイド　カバーを開き、締付けナットで固定します。



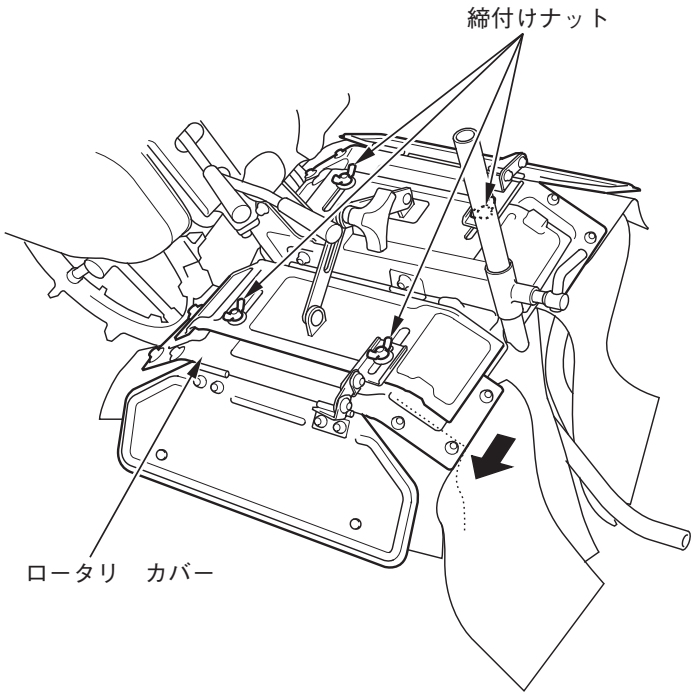
ロータリ　カバーの開きかた

固定ノブをゆるめてロータリ　カバーを開き、ノブを締付けて固定します。



ロータリ　カバーの延長

締付けナットをゆるめてロータリ　カバーを延長し、ナットを締付けて固定します。



ロータリ　ホルダの取付け

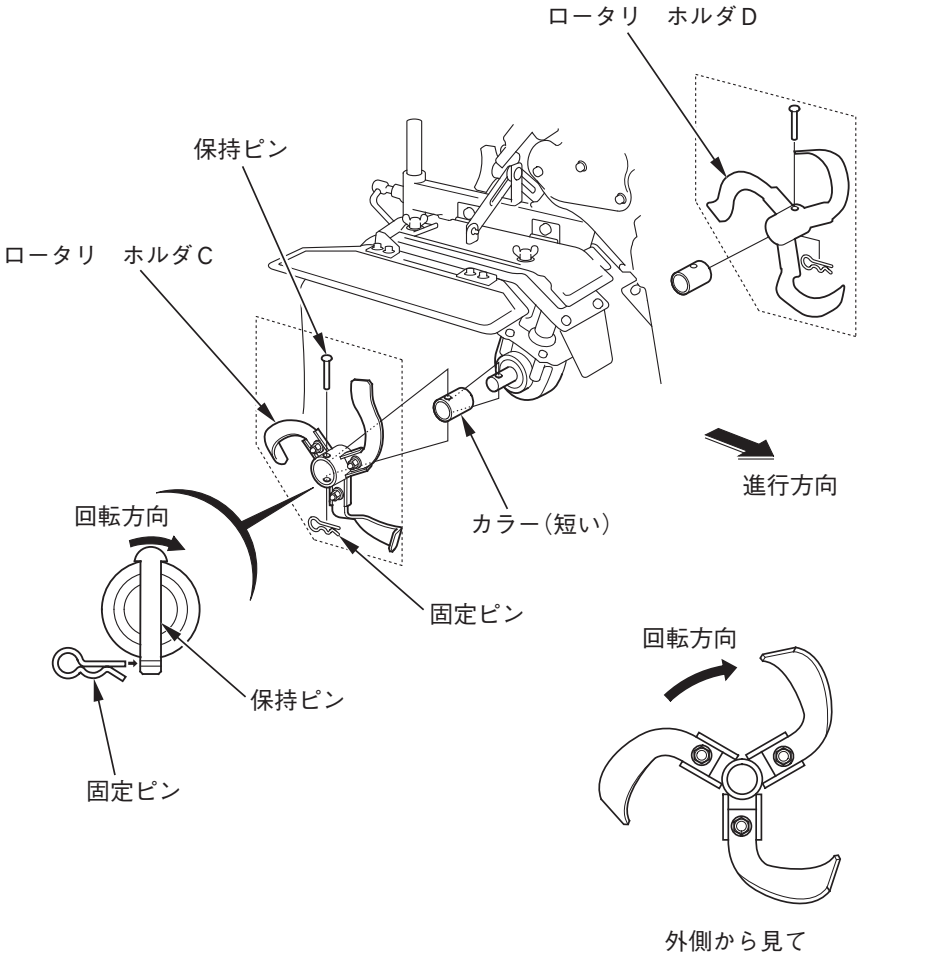
⚠注意

ロータリ　ホルダの取付け、取外しは、平坦な場所でエンジンを停止して行ってください。

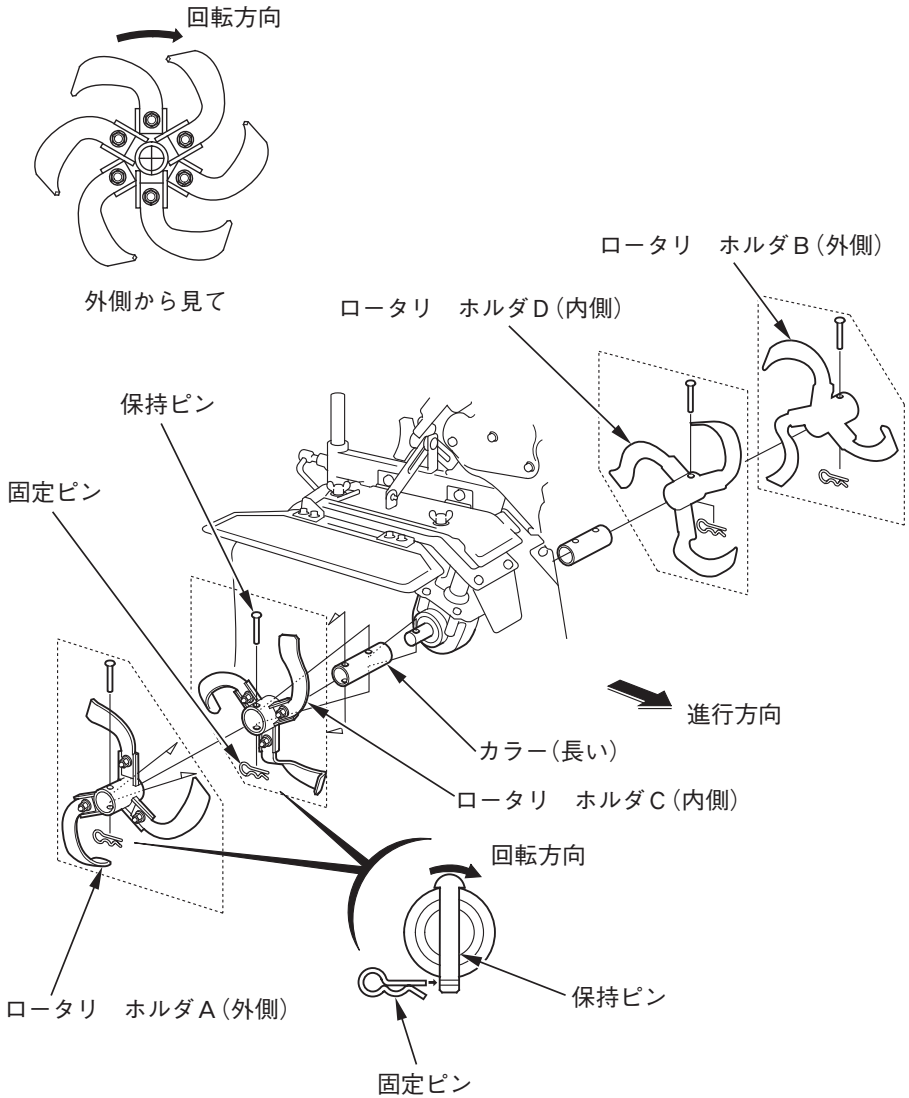
内側ロータリ　ホルダのみを使用する場合:

短いカラーを使用し、耕うん爪が左右同時打ちになるように取付けてください。

固定ピンは抜け防止のためにロータリ回転方向の逆方向から差込んでください。

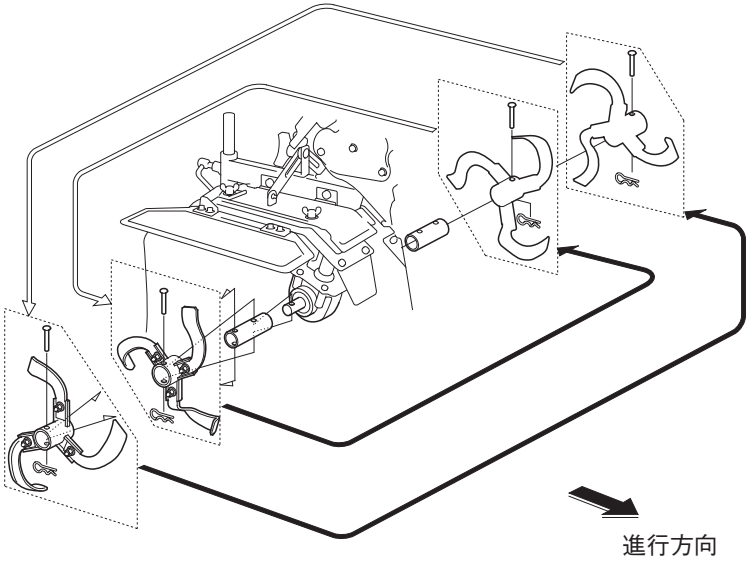


内側、外側両ロータリ　ホルダを使用する場合:
外側ロータリ　ホルダは内側ロータリ　ホルダと耕うん爪の位相を60°ずらして取付けます。
耕うん爪が左右同時打ちになるように取付けてください。
固定ピンは抜け防止のためにロータリ回転方向の逆方向から差込んでください。

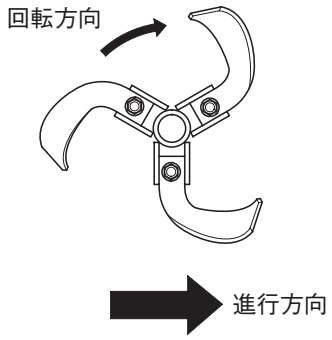


逆転作業時のロータリ　ホルダの取付け

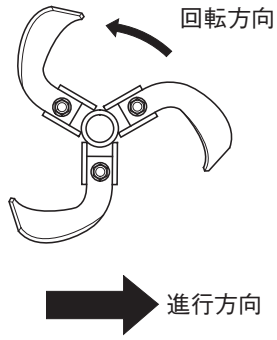
逆転作業時は、左右のロータリ　ホルダを入れ換えてください。
・図は正転作業時を基本に、逆転作業時のロータリ　ホルダの取付けかたを矢印で表しています。



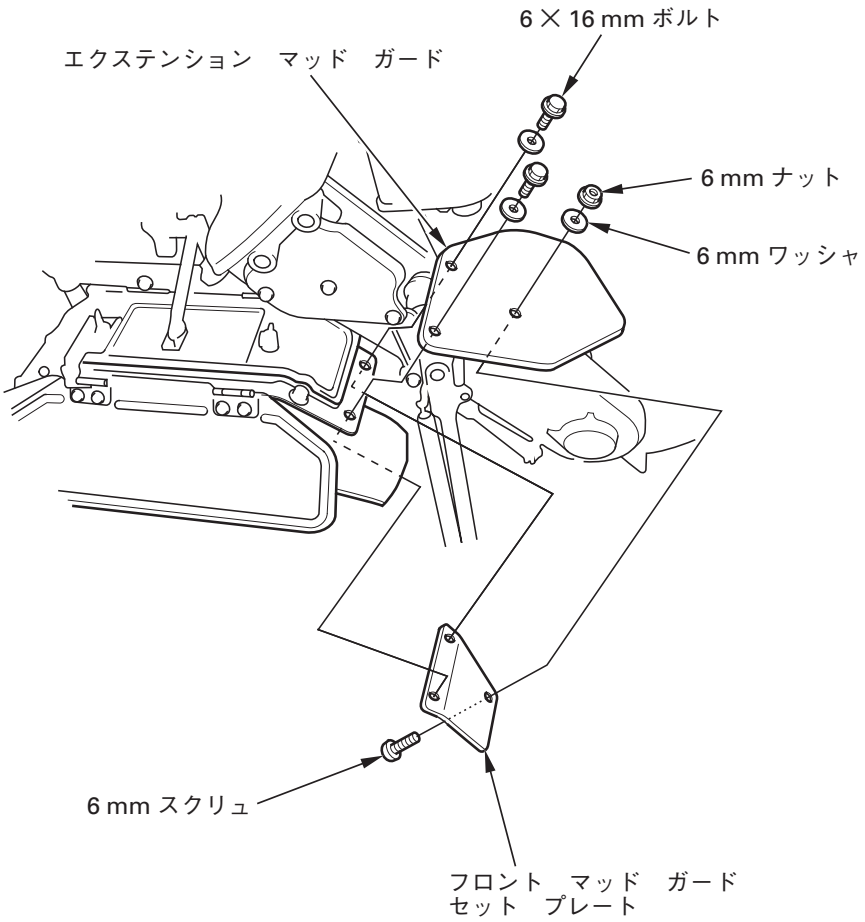
正転時（外側から見て）



逆転時（外側から見て）



逆転作業時は、図のようにエクステンション　マッド　ガードを取付けてください。(図は右側を示します。左側も同様に取付けてください。)

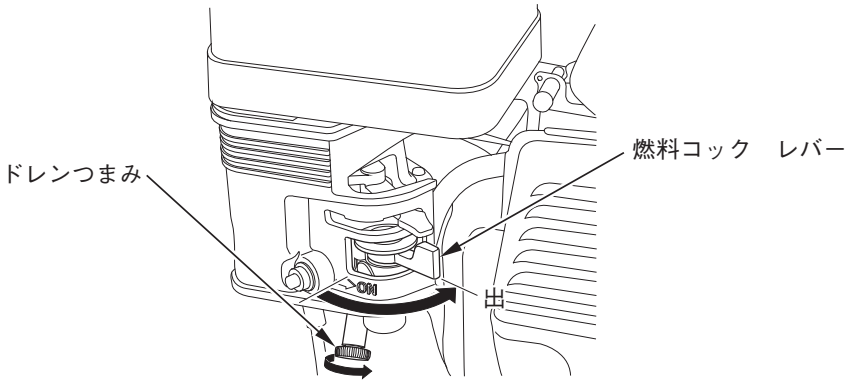


エンジンのかけかた

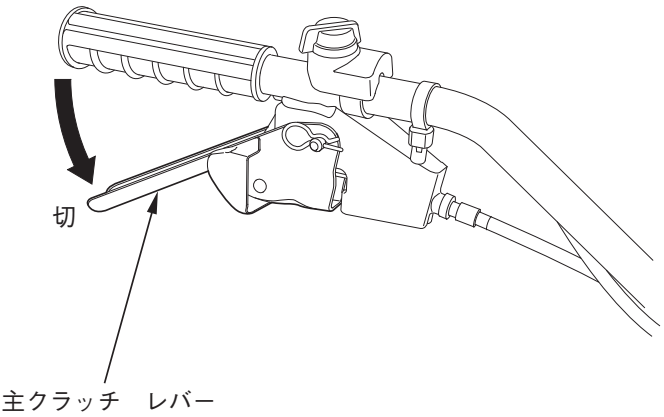
⚠警告

- 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内でエンジンを始動するときは換気に十分注意してください。ガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。転倒などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 周りで作業をしている人がいたら周りの人に合図をしてから、始動してください。本機とぶつかるなどでケガをするおそれがあります。
- マフラの排気方向に燃えやすいものがないか確認してから、始動してください。火災の原因になることがあります。
- 主クラッチ　レバーが“切”、変速レバーが“中立”になっていることを確認してからエンジンをかけてください。クラッチ、変速が入っていると急発進などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

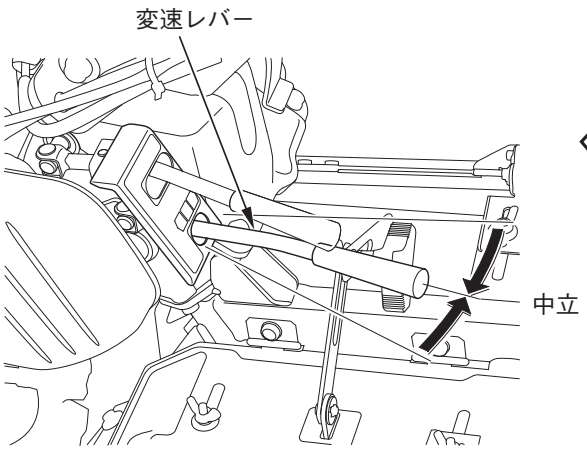
1. 燃料コック　レバーを“出”の位置にします。ドレンつまみが確実に締まっているか確認してください。

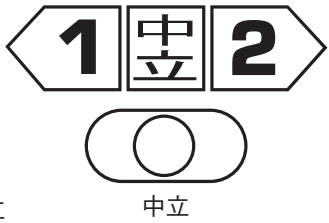


2. 主クラッチ　レバーが**“切”**になっていることを確認してください。

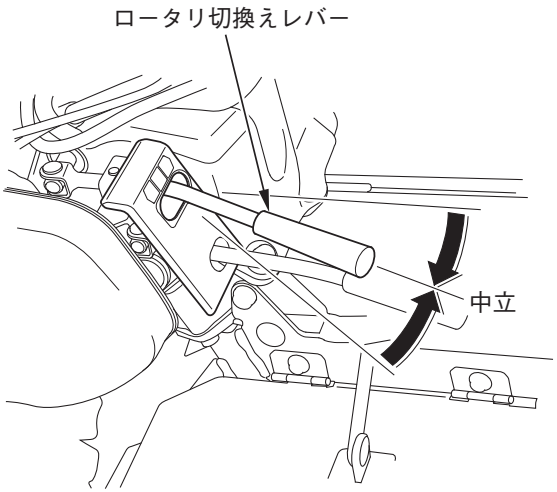


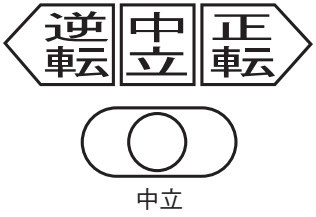
3. 変速レバーが**“中立”**になっていることを確認してください。



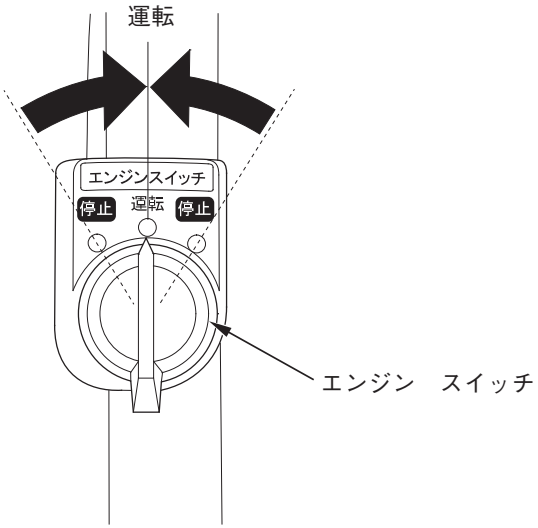


4. ロータリ切換えレバーが“中立”になっていることを確認してください。

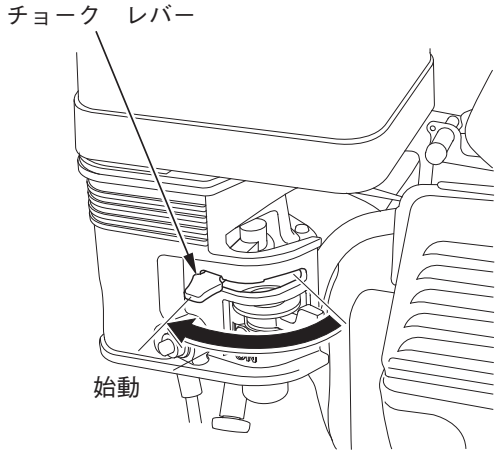




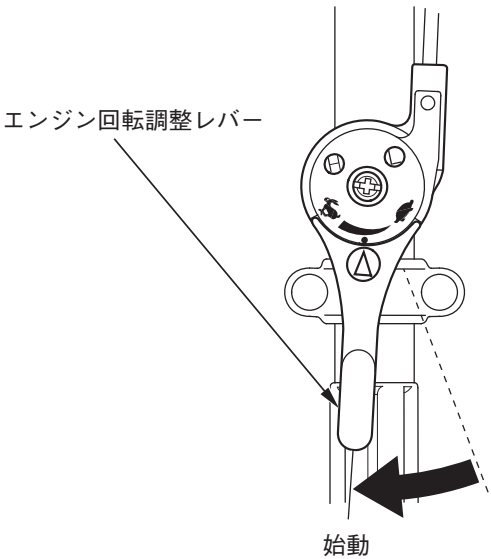
5. エンジン　スイッチを“運転”の位置にします。



6. 寒いときやエンジンがかかりにくいときには、チョーク　レバーを“始動”の位置にします。

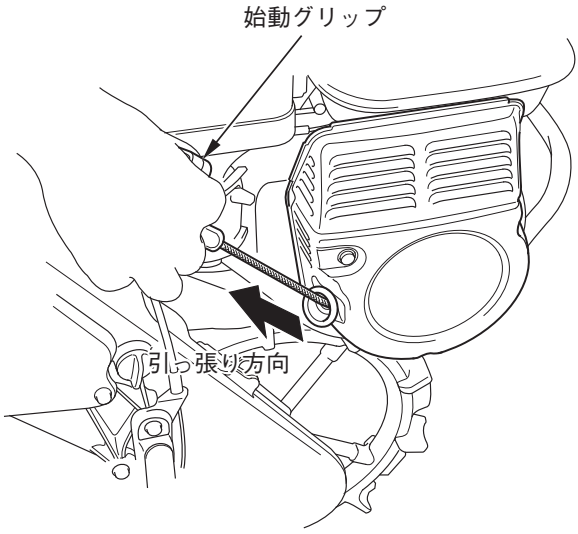


7. エンジン回転調整レバーを“始動”の位置に合わせます。





8. 始動グリップを静かに引いて、重くなるところで止めます。次に矢印の方向に強く引っ張ります。



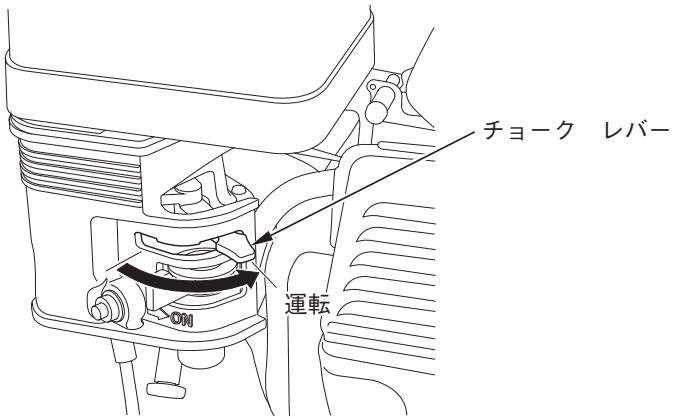
⚠注意

始動グリップを引くときは、引っ張る方向に人や障害物が無いか確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

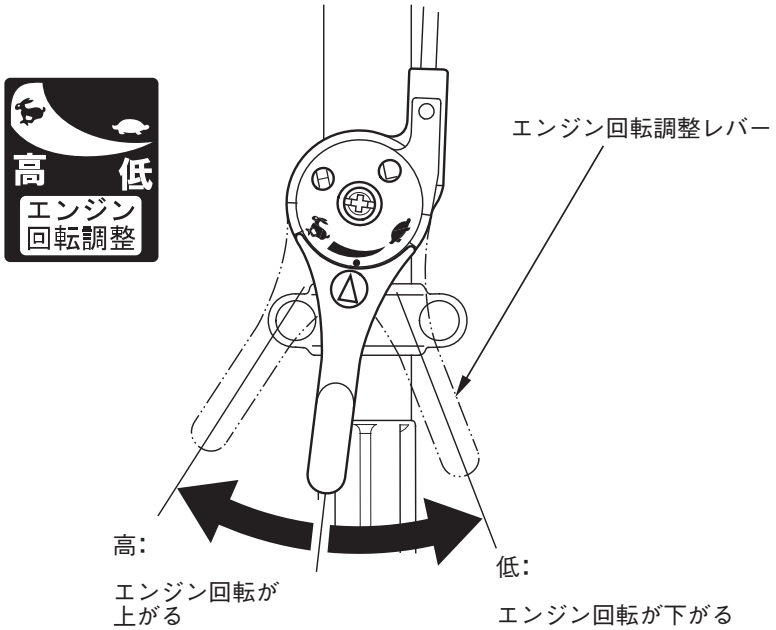
取扱いのポイント

- 始動グリップを引いたあと急に手を放さないでゆっくり戻してください。始動装置や周りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

9. エンジンが始動します。
10. 2 ～ 3 分間暖機運転を行います。チョーク　レバーを**“始動”**にしたときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら徐々に**“運転”**の方向に戻します。



11. エンジン回転調整レバーを調整して、適切なエンジン回転にします。



運転操作のしかた

安全な作業を行うために、作業をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目をよくお読みになり十分に理解して行ってください。

取扱いのポイント

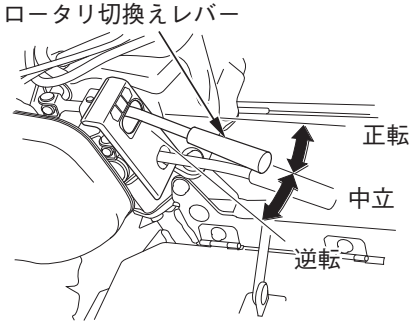
使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。

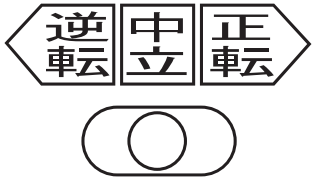
ロータリ

ロータリ切換えレバー

ロータリ切換えレバー操作により“正転”、“中立”、“逆転”に切換えることができます。

正転･･･耕うん爪は本機前進時の駆動車輪回転方向と同方向に回転します。
中立･･･耕うん爪は回転しません。
逆転･･･耕うん爪は本機前進時の駆動車輪回転方向と逆方向に回転します。

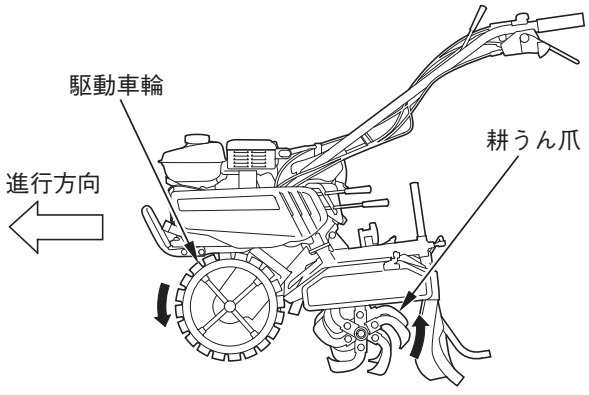




取扱いのポイント

- ロータリ切換えレバーの操作を行うときは、必ず本機の主クラッチ　レバーを“切”にしてください。
- 操作がスムーズにいかないときは、ロータリ切換えレバーを“中立”にし主クラッチ　レバーを“入”にして動かし、主クラッチを“切”にしてもう一度操作してください。

《正転》

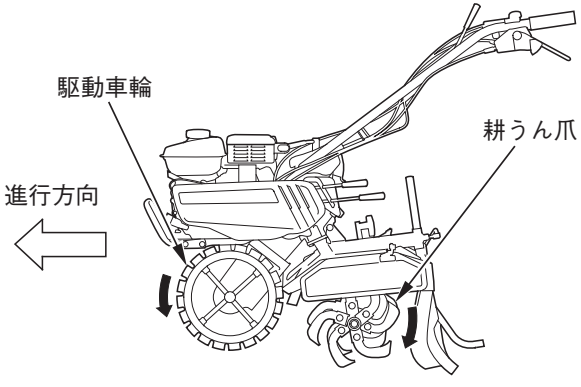


ロータリ切換えレバーを“正転”から“逆転”、“逆転”から“正転”へ切換えて作業を行うときは左右のロータリ　ホルダを入れ換えてください。(37頁参照)

⚠注意

正転作業のとき“逆転”へ、逆転作業のときに“正転”へレバーを切換えないでください。本機が飛び出し、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

《逆転》



逆転作業をする場合は、ロータリ　ホルダを左右入れ換え、エクステンション　マッド　ガードを取付けてください。(37、38 頁参照)

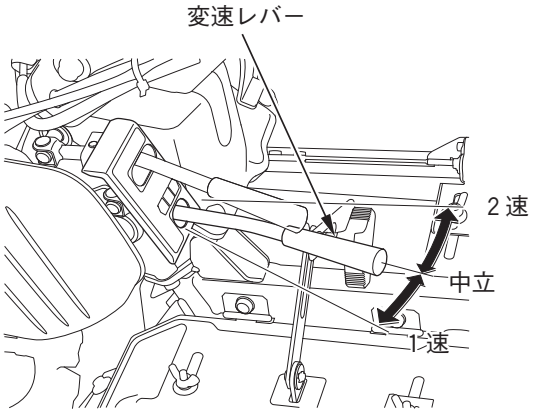
変速

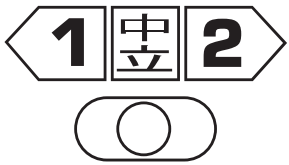
変速レバー

作業に合わせて変速位置を選びます。
速度が早すぎても、遅すぎても運転の疲労、作業能率、仕上り等に弊害が出ます。

変速の要領

変速レバーは、必ずクラッチを切ってから操作します。
変速レバーが操作しにくいときは、いったん主クラッチ　レバーを握ります。主クラッチ　レバーを放し変速レバーをもう一度操作します。





変速表

変速位置	車軸回転数	車速
1	32.1 rpm	0.54 m/秒
2	59.3 rpm	0.99 m/秒

車速はタイヤ外径ø320 mm、エンジン回転数 3,600 rpm 時の数値です。

運転

主クラッチ　レバー

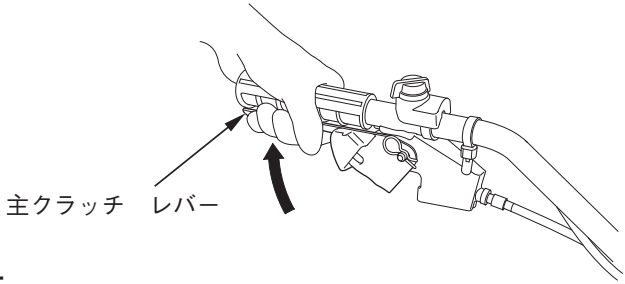
主クラッチ　レバーを操作することにより、本機の走行及び停止を行います。

⚠注意

本機の操作を行うときは、本機後方中央に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。バランスをくずし、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

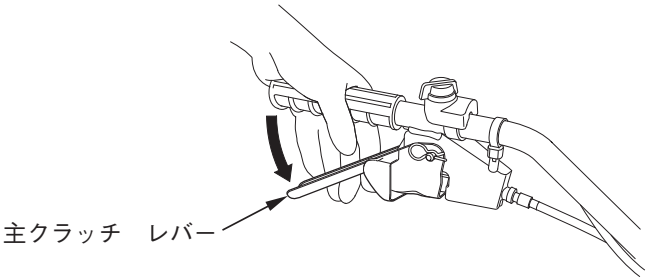
走行

主クラッチ　レバーを握る→クラッチがつながり、本機が走行します。



停止

主クラッチ　レバーを放す→クラッチが切れ、本機が停止します。



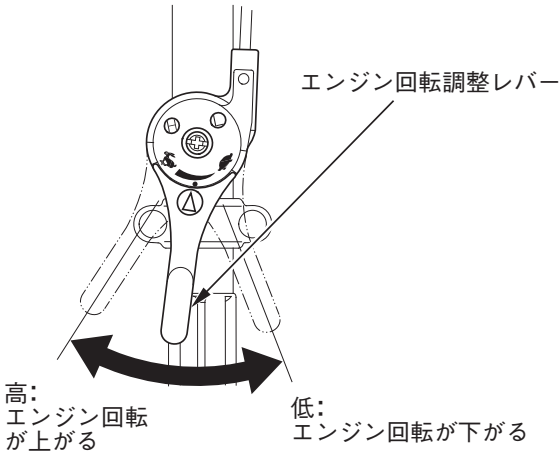
取扱いのポイント

主クラッチ　レバーの操作は、静か(スムーズ)に行ってください。エンジン回転も低くしておきます。急激な操作を行うと、機体が飛び出したり、エンジンが停止したりします。

エンジン回転調整レバー

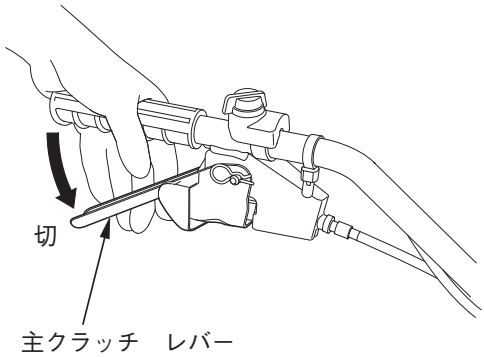
エンジンの回転数を作業に応じて設定してください。





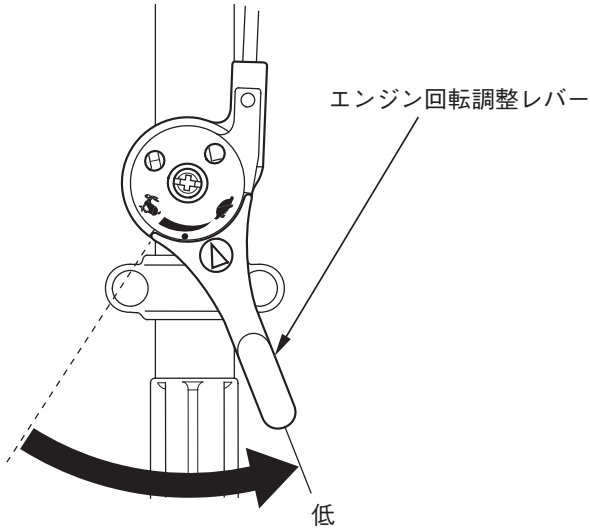
エンジンのとめかた

1. 主クラッチ　レバーを放して**“切”**にします。

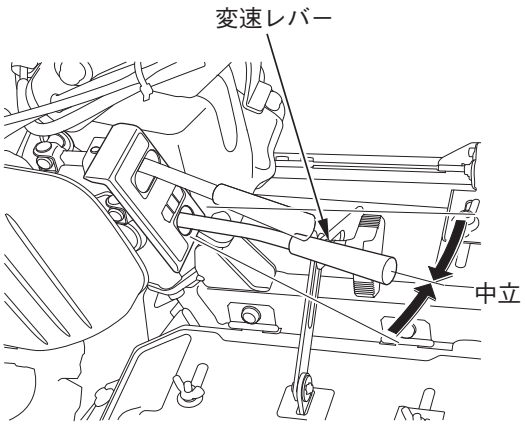


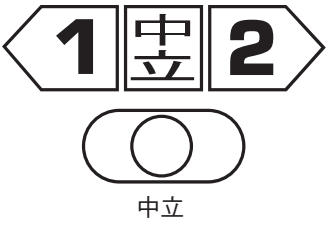
2. エンジン回転調整レバーを**“低”**の方向に戻し、エンジン回転を下げます。



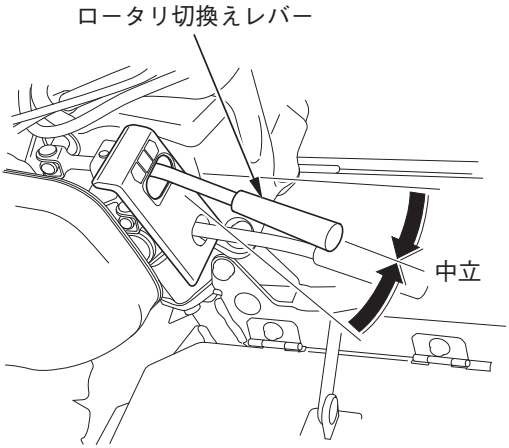


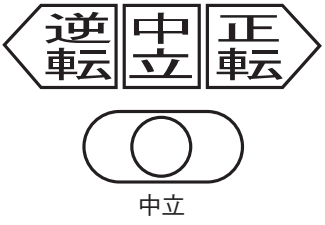
3. 変速レバーを**“中立”**の位置にします。



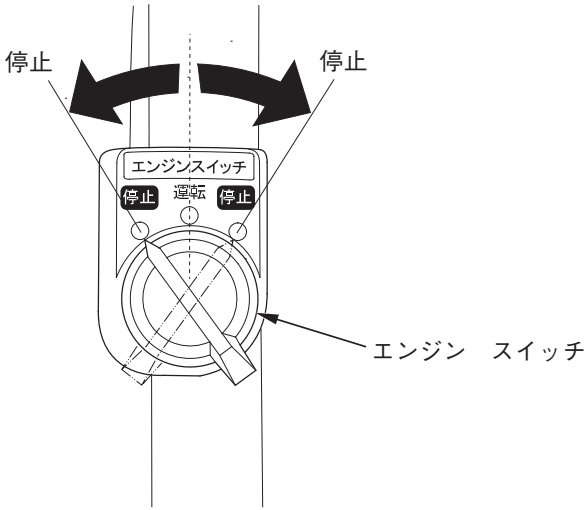


4. ロータリ切換えレバーを**“中立”**の位置にします。

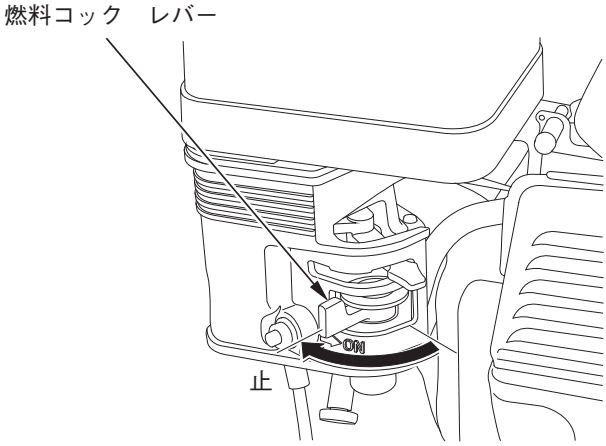




5. エンジン　スイッチを“停止”に合わせます。



6. 燃料コック　レバーを“止”に合わせます。



定期点検を行いましょう

お買いあげいただきました本機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行ないましょう。

定期点検表

点検項目 ＼ 点検時期（1）		稼働期前	作業前点検	1ヶ月目または20時間運転目	3ヶ月毎または50時間運転毎	6ヶ月毎または100時間運転毎	1年毎または300時間運転毎
エンジン　オイル	点検		○				
	交換	○		○		○	
エア　クリーナー	点検		○				
	清掃				○（2）		
	交換						○
本機周りの点検	点検		○				
主クラッチ	点検、清掃		○				
レバーの作動	グリス塗布	○(3)(4)					
レバー類の作動	点検		○				
各部の締付け	点検		○				
配線、ケーブル類	点検		○				
エンジンの始動、停止	点検		○				
泥水カバー	点検、清掃		○				
変速機オイル	点検	○		○			○
	交換	2年毎（3）					
駆動ベルト	点検、調整			○(3)(5)		○(3)(5)	
燃料ろ過カップ	清掃					○	
アイドル回転	点検、調整						○（3）
点火プラグ	点検、調整					○	
	交換						○
エンジン回転調整ケーブル	点検、調整						○
主クラッチケーブル	点検、調整			○（3）		○（3）	

点検項目 ＼ 点検時期（1）		稼働期前	作業前点検	1ヶ月目または20時間運転目	3ヶ月毎または50時間運転毎	6ヶ月毎または100時間運転毎	1年毎または300時間運転毎
ハンドル上下レバー　ケーブル	点検、調整						○
スタンド　レバーケーブル	点検、調整						○
各部の防錆、給油	塗布、給油	○（3）					
吸収、排気弁すき間	点検、調整						○（3）
燃焼室	清掃	500時間運転毎　（3）（6）					
燃料タンク及びフィルター	清掃						○（3）
燃料チューブ	点検	2年毎　（必要なら交換）（3）					

（1）点検時期は表示の期間毎又は運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
（2）ホコリの多い所（逆転土揚げ等）で使用した場合、清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。
（3）適切な工具と整備技術を必要としますので、お買い上げ販売店又はサービス店で実施してください。
（4）長時間（30日以上）保管する場合は、錆防止のため潤滑剤（グリス）を主クラッチ　レバー廻りの摺動部へ塗布してください。
（5）ベルトに亀裂、異常磨耗が入っていないことを確認し、異常がある場合は交換してください。
（6）表示時間を経過後すみやかに実施してください。

⚠警告
点検、整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ　キャップを取外して行ってください。

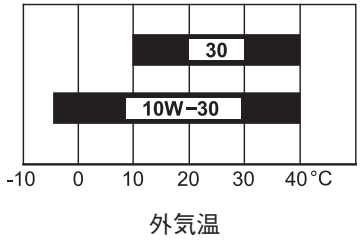
エンジン　オイルの交換

エンジン　オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》　初回：１か月目または20時間運転目、
以後：６か月毎または100時間運転毎
また、稼働期前には必ず交換してください。

《推奨オイル》（４サイクル　ガソリン　エンジン　オイル）
Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)
またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。

エンジン　オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

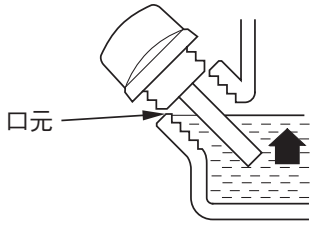


《エンジン　オイル量》 0.6ℓ

《交換のしかた》

1. エンジンを水平にしてオイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
2. 排油ボルトをきれいに洗い、新品のシーリング　ワッシャを取付け、シリンダ　バレルに確実に締付けます。
3. 注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。





⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

取扱いのポイント

- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検･交換を行いましょう。
- 必ずエンジンを水平にし、オイルを給油してください。
- 交換後のエンジン　オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。

エア　クリーナ(空気清浄器)の清掃・交換

エア　クリーナ(空気清浄器)が目詰まりをすると出力不足になり、燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

⚠警告

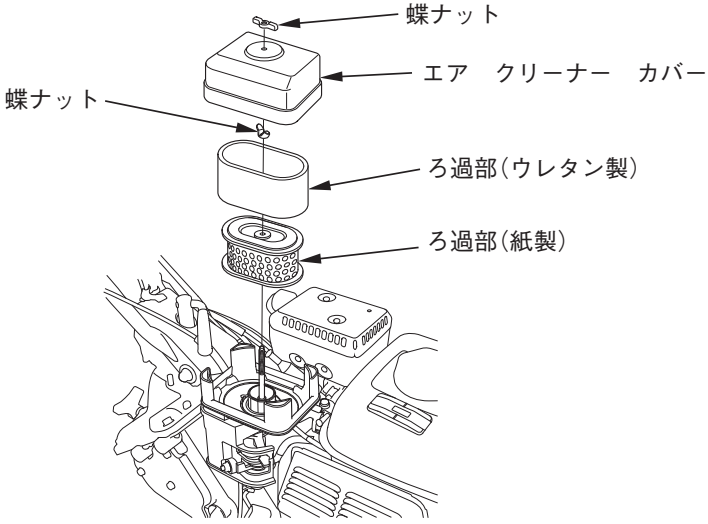
洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
換気の良い場所で行ってください。

《清掃時期》　3ケ月毎または50時間運転毎
ホコリの多い場所(逆転土揚げ等)で使用した場合は、10時間運転毎または1日1回行ってください。

《交換時期》　1年毎または300時間運転毎

《清掃のしかた》

1. 蝶ナット2個を外し、図のようにエア　クリーナ　カバー、ろ過部を取外します。
2. ろ過部(ウレタン)は洗い油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。オイルに浸した後、固く絞って取付けます。
   ・Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)
   またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。



3. ろ過部(紙製)は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。
4. ろ過部、エア　クリーナ　カバーを確実に取付けます。

取扱いのポイント

- エア　クリーナ　カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア　クリーナ　カバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。
- ろ過部(ウレタン)にオイルをつけすぎないように注意してください。

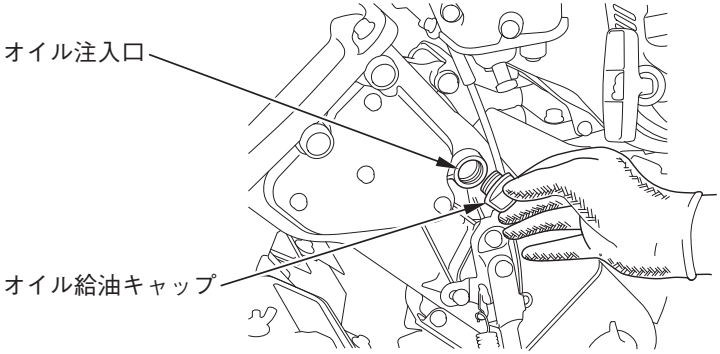
変速機オイルの点検

《点検時期》　初回：１ケ月目または20時間運転目
以後：稼働期前

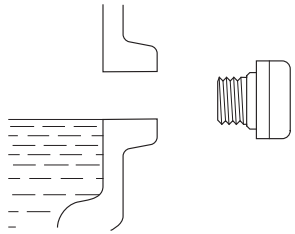
《推奨オイル》　Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)
またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。

《変速機オイル量》　1.5ℓ

《点検のしかた》
エンジンを水平にしオイル給油キャップを外し、口元までオイルがあるか点検します。少ない場合は補給してください。



- オイル給油キャップを外し、口元まで補給してください。
- 補給後、キャップは完全に締付けてください。



取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

点火プラグの点検･調整･交換

電極が汚れたり、火花すき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

《点検･調整時期》

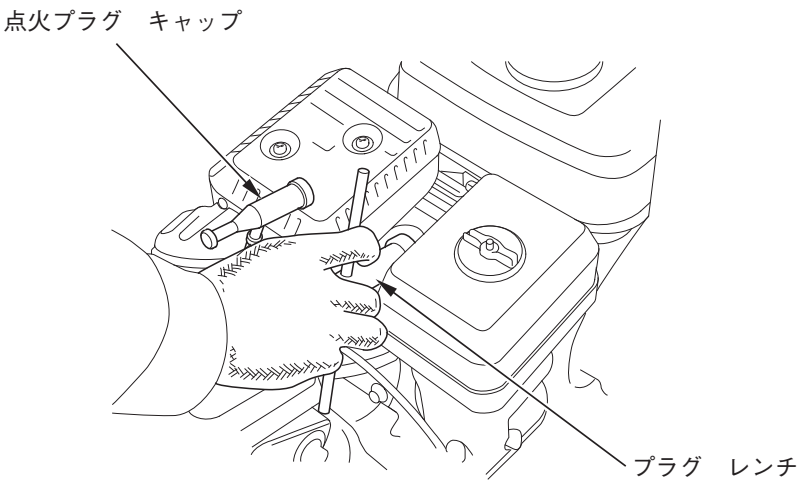
6か月毎または100時間運転毎

《交換時期》

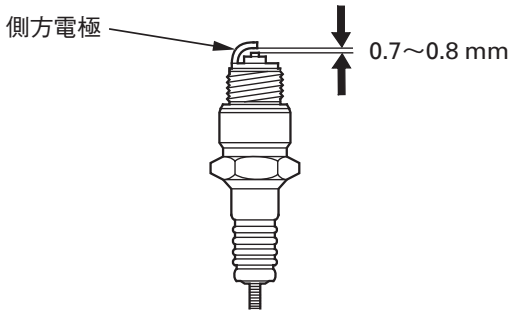
1年毎または300時間運転毎

《点検のしかた》

1. エンジンを停止します。
2. 点火プラグ　キャップを取外します。
3. プラグ　レンチで点火プラグを取外します。
4. 点火プラグを点検します。汚れている場合は清掃してください。
   点火プラグの清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。
   プラグ　クリーナが無いときは、針金かワイヤ　ブラシで汚れを落としてください。



《調整のしかた》
側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。
火花すき間：0.7－0.8 mm
《標準プラグ》
BP4ES(NGK) 、 W14EP-U(DENSO)



取扱いのポイント

- 故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。
- 点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽く一杯までねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締付けてください。
- 点検･調整後は点火プラグ　キャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

燃料ろ過カップの清掃

燃料ろ過カップ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

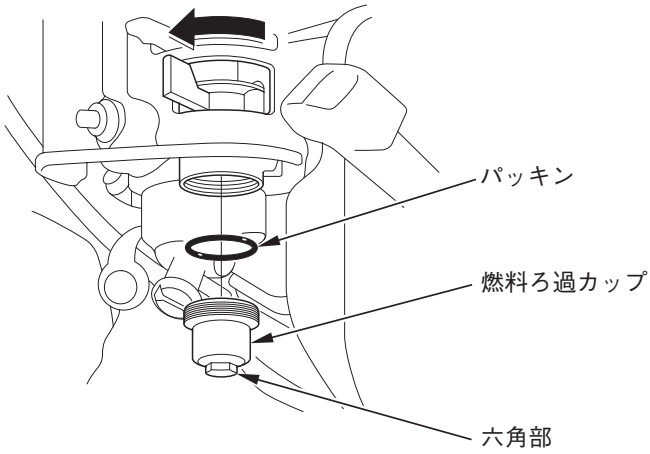
- 火気を近づけないでください。
- 燃料ろ過カップの取付け後、漏れがないか点検してください。
- ガソリンが周りに付いている場合は良くふき取り完全にかわかしてからエンジンを始動してください。

《清掃時期》

6か月毎または100時間運転毎

《清掃のしかた》

1. 燃料コック　レバーを**“止”**にします。
2. 六角部を回してゆるめ燃料ろ過カップを取外します。
3. 燃料ろ過カップを洗い油でよく洗い、底にたまったゴミや水を取除きます。
4. 清掃後、パッキンを元どおりに取付け、燃料ろ過カップを取付けます。
5. 燃料ろ過カップは、六角部を回して確実に締付けてください。
6. 燃料コック　レバーを**“出”**にし燃料の漏れのないことを確認します。



エンジン回転調整ケーブルの点検・調整

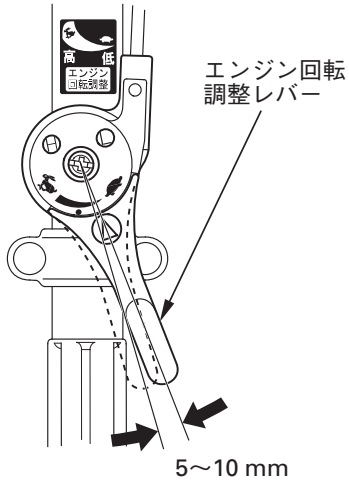
エンジン回転調整ケーブルの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。

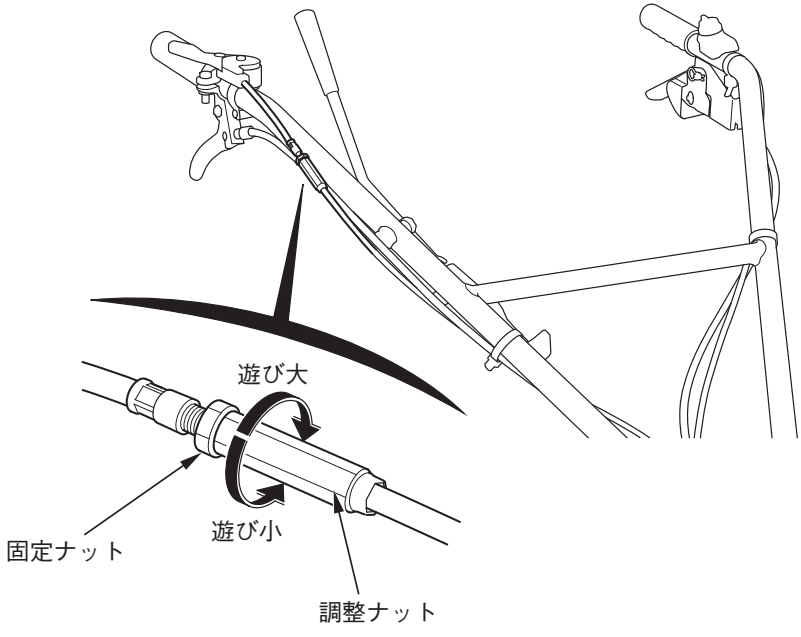
《点検・調整時期》

1年毎または300時間運転毎

《点検、調整のしかた》

1. ハンドル高さを下から2段目にします。
2. エンジン回転調整レバーを“低”の位置にし、レバー先端の遊びを点検します。
   レバー先端の遊び：5 ～ 10 mm
3. 調整は、固定ナットをゆるめて調整ナットをまわして行ないます。
4. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。





ハンドル上下レバー　ケーブルの点検･調整

⚠注意

ハンドル上下レバー　ケーブルの調整が完全でないと、作業中にハンドルが動き思わぬ事故になるおそれがあります。

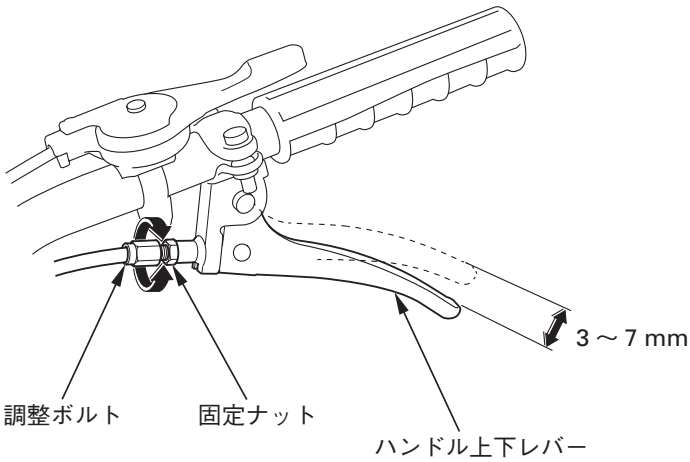
《点検･調整時期》

1年毎または300時間運転毎

《点検、調整のしかた》

1. ハンドル上下レバー先端の遊びを点検します。
   レバー先端の遊び：3～7 mm

2. 調整は固定ナットをゆるめ、調整ボルトを回して行います。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。



スタンド　レバー　ケーブルの点検･調整

スタンド　レバー　ケーブルの調整が正しくないと、スタンドの作動が悪くなります。

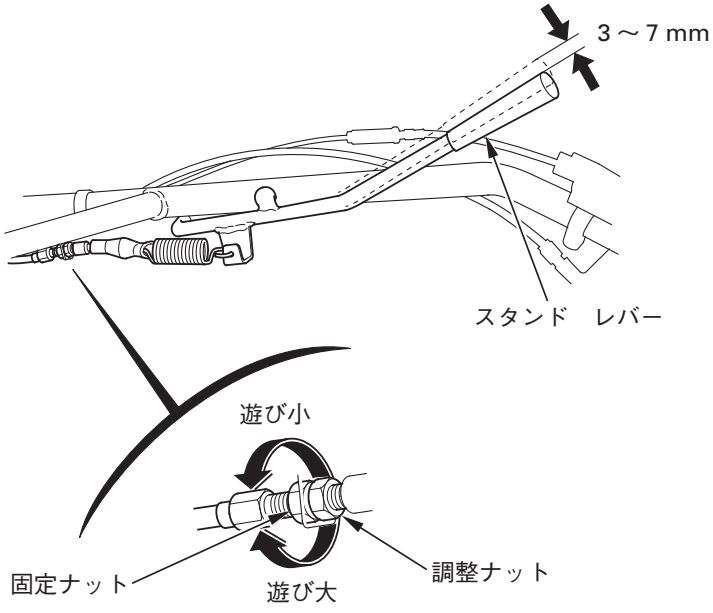
《点検･調整時期》

1年毎または300時間運転毎

《点検、調整のしかた》

1. スタンド　レバーを**“停車”**の位置にし、レバー先端の遊びを点検します。
   レバー先端の遊び：3～7 mm

2. 調整は、固定ナットをゆるめ調整ナットを回して行います。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。



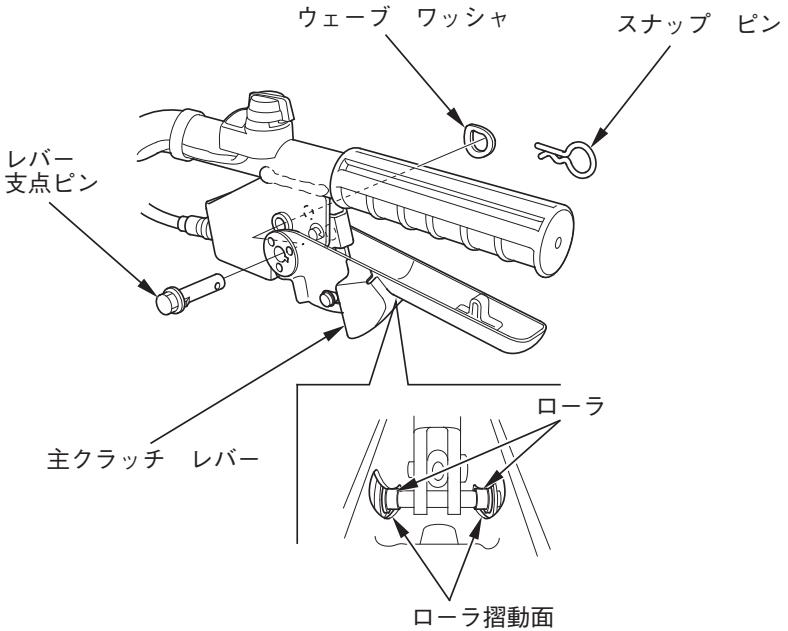
主クラッチ　レバーの清掃

「レバーのローラ摺動面清掃」「異物の除去」は、主クラッチ　レバーを取外して行います。

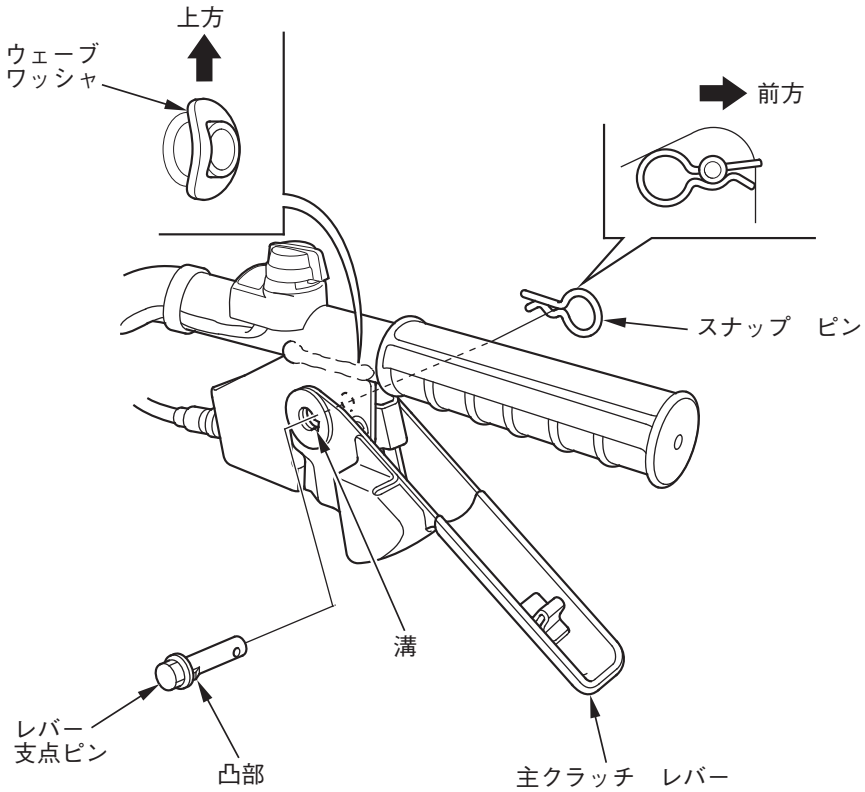
取扱いのポイント

主クラッチ　レバーの取外し時、ウェーブ　ワッシャの落下に注意してください。ウェーブ　ワッシャは、主クラッチ　レバー右側と取付け部との間にあります。

1. スナップ　ピンをレバー支点ピンから引抜きます。
2. 主クラッチ　レバーを保持しながら、レバー支点ピンを抜取ります。
   主クラッチ　レバーとウェーブ　ワッシャを取外します。
3. 異物がある場合、取除きます。
   主クラッチ　レバーのローラ摺動面の汚れをウエス等で拭取ります。



4. ウェーブ　ワッシャの表裏と方向を図のようにします。この状態で主クラッチ　レバーを取付部に合わせて、レバー支点ピンを差込みます。
5. レバー支点ピンの凸部を主クラッチ　レバーの溝に合わせ、スナップ　ピンを図の向きに差込みます。



6. 主クラッチ　レバーがスムーズに動くことを確認します。スムーズに動かない場合、お買いあげ販売店またはサービス店にて整備してください。

取扱いのポイント

オイル、洗浄剤などを塗布したり吹付けないでください。オイル、洗浄剤などに異物が付着することがあります。

ロータリ爪の点検･交換

⚠注意

- 点検、交換は平坦な場所でエンジンを止め、プラグ　キャップを外してから行ってください。
- 手にケガをしないよう厚手の手袋を着用してください。

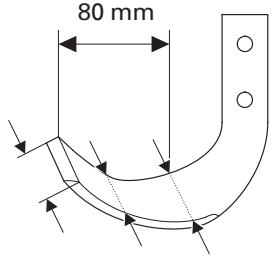
点検

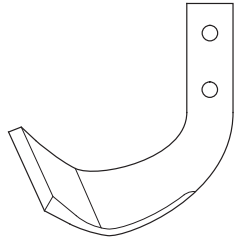
1. ロータリ爪に損傷、曲がり、ガタがないことを確認してください。もし異常があったときは締付け、または交換してください。
2. ロータリ　ホルダの保持ピンに脱落、変形がないことを確認してください。必要であれば新しい保持ピンと固定ピンを取付けてください。

取扱いのポイント

- ロータリ爪はHonda純正部品を使用してください。
- ピン抜け防止のためロータリ回転方向と逆方向からロック　ピンを差し込んでください。

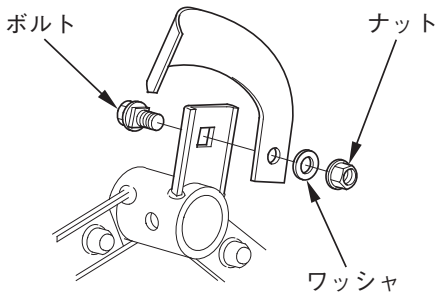
3. ロータリ爪先端から80 mmの範囲内で、ロータリ爪巾が摩耗により15 mm以下になったら、ロータリ爪を交換してください。
   - 効率の良い耕うん作業の為に、ロータリ爪は早めにお取替えください。

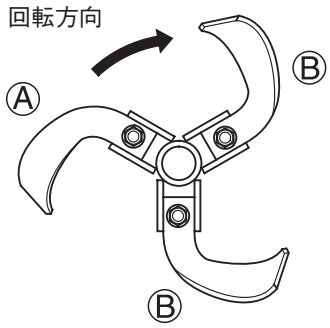




ロータリ爪の取付け

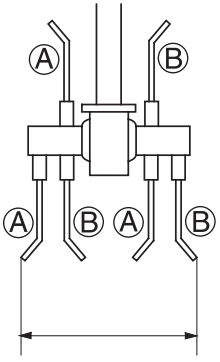
ロータリ爪の取付けは外爪と内爪の 2 種類あります。
ナットは外側から締付けます。

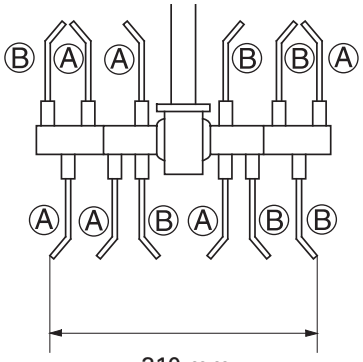




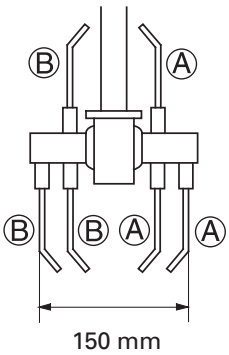
外側から見て

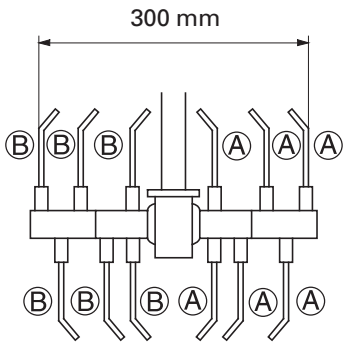
外爪（中耕培土作業）





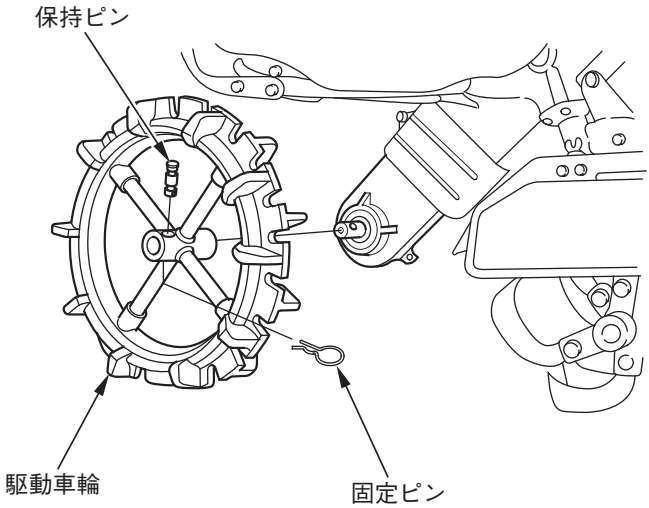
内爪（中耕作業）





駆動車輪取付けピンの交換

石かみ等で保持ピンが折れたときは図のように交換してください。



取扱いのポイント

- 駆動車輪に石噛み等で過大な力がかかると保持ピンは折れる構造になっています。折れた場合は原因を取除き指定の保持ピンを取付けてください。
- 指定以外の保持ピンを取付けると本機に重大な損傷を与えるおそれがあります。

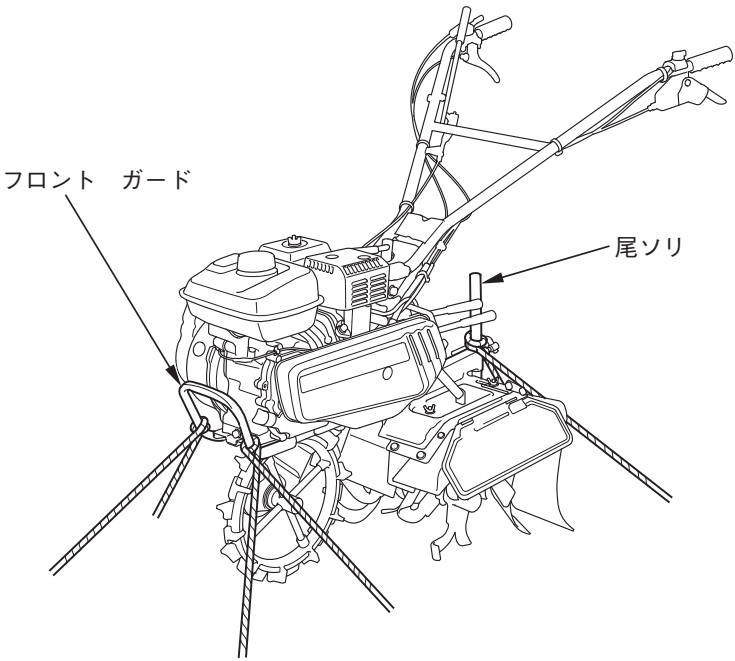
車への積載

ロープ固定位置

ロープなどで本機を図のように固定します。
尾ソリを接地させた状態で固定してください。

取扱いのポイント

指定以外の場所にロープをかけたり、本機が変形するような過大な力でロープ等を締付けないでください。



長期間使用しないときの手入れ

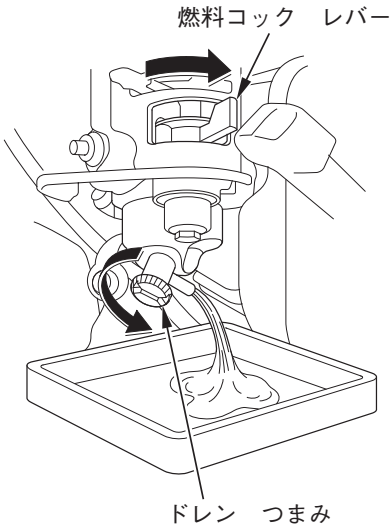
長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータ内のガソリンを抜いてください。古くなったガソリンは故障の原因となります。
エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグ　キャップをプラグから取外します。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを抜くときは
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

1. 燃料タンク、キャブレータ(気化器)内のガソリンを下記の要領で抜きます。

《抜きかた》
1) 燃料コック　レバーを“出”にします。
2) キャブレータのドレンつまみ(ガソリン排出用つまみ)を1～2回転ゆるめ、キャブレータと燃料タンク内のガソリンを抜きます。ガソリンは適切な容器で受けてください。
3) 完全にガソリンが抜けたらドレンつまみを確実にしめます。
4) 燃料コック　レバーを“止”にします。



2. エア　クリーナ(空気清浄器)を清掃します。(清掃方法は60ページ参照)
3. 始動グリップを重くなるまで引きます。(エンジン　バルブが閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になります。)
4. 主クラッチ　レバーは**“切”**の位置にします。(主クラッチ　レバーから手を離した状態にします)

取扱いのポイント

- 次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。
- 本機を水平の状態にして平坦で安定した場所で保管してください。ハンドルを地面に付けた状態で保管するとエンジンがかかりにくくなることがあります。

故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう

1. 始動方法は取扱説明書通りですか?（39～44頁参照）
2. ガソリンはありますか?（23、24頁参照）
3. エンジン　オイルは注入口、口元までありますか?（25頁参照）
4. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか?（60、61頁参照）

- 点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

主 要 諸 元

名　　称		FR316
型　　式		ホンダ FR316
区　　分		J
全　　長		1,270 mm
全　　幅		615 mm
全　　高		980 mm
全装備質量［重量］		52 kg
エンジン	名　　称	GX120K1
	形　　式	空冷4ストローク傾斜型ガソリンエンジン(OHV)
	総　排　気　量	118 cm^3
	連続定格出力／回　転　速　度	2.1 kW (2.9 PS)/3,600 rpm
	最大出力／回転速度（SAE J1349に準拠＊1）	2.6 kW (3.5 PS)/3,600 rpm
	使　用　燃　料	無鉛レギュラーガソリン
	燃料タンク容量	0.9 ℓ ＊2
	点　火　方　式	トランジスタ式マグネト点火
	始　動　方　式	リコイル　スタータ
	エンジンオイル容量	0.6 ℓ
ハンドル高さ調整		6段階、595 ～ 1,095 mm
ハンドルスイング		左右 10°、20°、30°
タイヤサイズ		320 × 55 A－006G
ベルト種類・サイズ		W400 SB 35″
主クラッチ		ベルト　テンション式
変　速　機		前進 2 段

＊1：ここに表示したエンジン出力はSAE J1349に準拠して3,600rpm（エンジン最大出力）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

＊2：駆動車輪とロータリが水平面に接地した状態を基準とする。

諸元は予告なく変更することがあります。

同梱部品の組付けかた

次の手順と要領で同梱部品を組付けてください。
なお、説明に使用しているイラストが一部実機と異なる場合がありますが取付け手順と要領は同じですのでご了承ください。

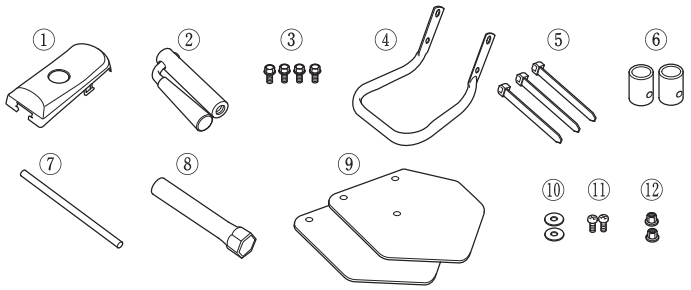
⚠注意

取付け作業は必ず手袋を着用して２人で行ってください。本機が転倒し思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。作業をする間、１人は本機が倒れないようにささえてください。

梱包を開き、同梱部品、本機を取出し、梱包材などの緩衝材の上に置きます。
下記部品リストで部品点数、および損傷の有無を確認してください。

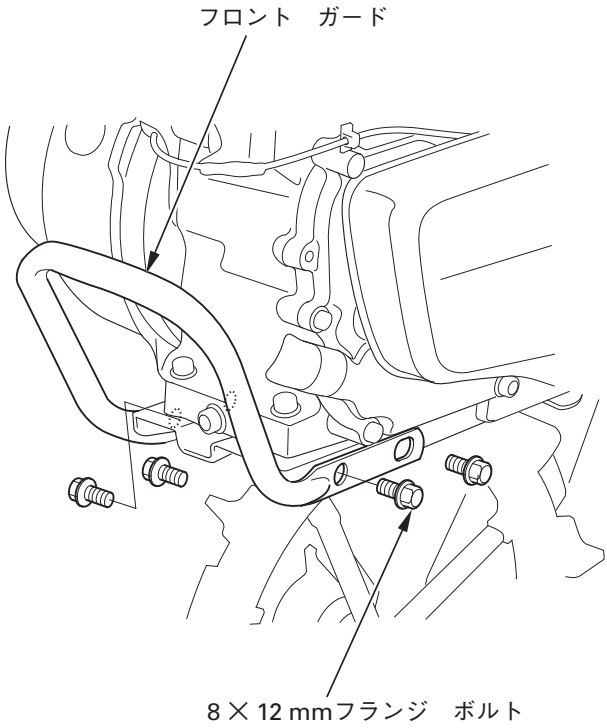
部品リスト

No.	部品名称	個数
①	ハンドル　コラム　カバー	1
②	ハンドル固定レバー	1
③	8 × 12 mmフランジ　ボルト	4
④	フロント　ガード	1
⑤	ケーブル　バンド	3
⑥	カラー(短い)(内側ロータリホルダのみ使用時)	2
⑦	プラグ　レンチ　ハンドル	1
⑧	プラグ　レンチ	1
⑨	エクステンション　マット　ガード(逆転ロータリ作業時取付け)	2
⑩	6 mm ワッシャ(エクステンション　マット　ガード取付け用)	2
⑪	6 mm スクリュ(エクステンション　マット　ガード取付け用)	2
⑫	6 mm ナット(エクステンション　マット　ガード取付け用)	2



フロント　ガードの取付け

フロント　ガードをフレームの取付け穴に合わせて取付け、8 × 12 mm フランジ　ボルト 4 本で確実に締付けます。

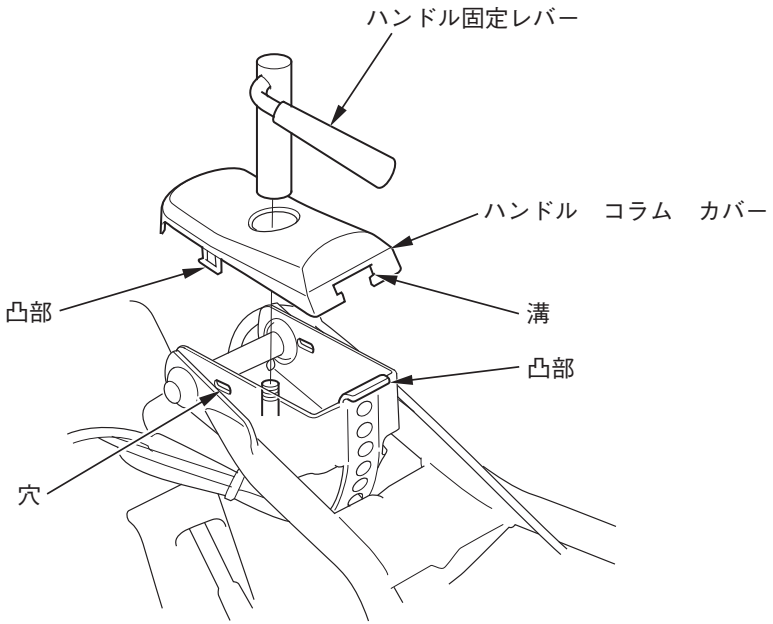


ハンドル固定レバーの取付け

1. ハンドル　コラム　カバーをハンドル　コラムに取付けます。
   後側の溝にハンドル　コラムの凸部を合わせ、左右の凸部をハンドル　コラムの穴に合わせます。

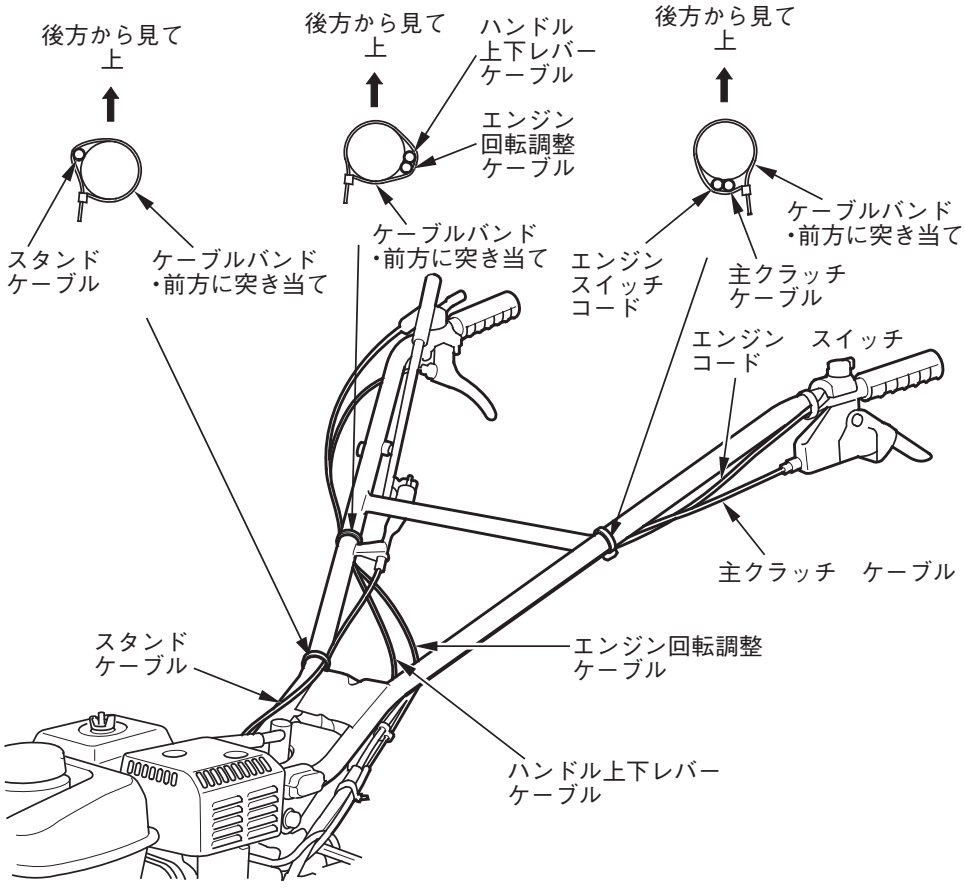
2. ハンドル固定レバーを確実に締付けます。

3. 取付け後、ハンドル高さを調整してください。(29頁参照)



ケーブル　バンドの取付け

図の位置にケーブル　バンドを取付け、各ケーブルおよびワイヤを固定します。



エンジン　オイル

エンジン　オイルは入っていません。（オイル注入は55、56 頁参照）

ガソリン

ガソリンは入っていません。（ガソリン補給は23、24 頁参照）

Honda汎用製品についてのお問い合わせ･ご相談は、
まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120－112010（イイフレアイオ）

受付時間　9：00～12：00　13：00～17：00
〒351-0188　埼玉県和光市本町８－１

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①製品名、タイプ名
②ご購入年月日
③販売店名

この商品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後９年です。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、お買いあげいただいた販売店へお申しつけください。

HONDA

The Power of Dreams

30744700
00X30-744-7001

Ⓢ Ⓝ Ⓗⓒ 300.2009.08
©2008 本田技研工業株式会社